



安富筆記

三

三

1 曾 5
494
3



手紙

目録 5
巻

一 老人ノ物語同書 秀忠公御所望ニテ 細川忠興



曹一頭被差上則角頭巾ノ角キツト立名形澁谷 大炊頭利勝披露也 秀忠公御意ニ入御感不

ヲ御前ニ召種ノ御座羨アリ時ニ御甲ニ子リガリノ打緒ヲ 忍ノ緒ニ付タリ忍ノ緒ニハ麻ノクケ緒カ能ト聞召及タリ

此打緒カ能カトノ御不審ナリ其時越中守懐中ヨリ桐箱ヲ 取出シ其内ニ麻布ノ忍ノ緒ヲ入候ヲ差上土井大炊頭ニ向テ打

緒ヲ付置候ハ御祝義迄御座候是ハ御礼ニ付候物故別ニ 仕置只今御前ニテ付直ニ申候ト申上ル 秀忠公御様也

此御曹ヲ大坂御陣ニ被為召候ト云々 一同書同卷 因野丸内角栄螺ノ曹上 同書卷四加藤九馬

助カ富士山ノ曹

即富士山ヲ移シタル具足ハ佛胸ニシテ腋板胸天ノ乗云々タルヲキエスル世人具足ト云富士ノ曹ニ天人ノ具足ハ能

對ナリト

一 秀吉公八月ノ曹ハ天正十五年秀吉公聚樂ノ御普詣出

来其冬御徒移有之其御祝義トシテ日根野織部カ献名曹

也生駒宮内女捕物語ニ八月ノ月立物ハ御曹ノ後ニ五月ニ分一程

隠レニ分ノ御曹ノ上ニ出ル也中々見事成御立物ト被申也

○右同書卷三畧文

一 下総国廳南ナ城へ上杉定政被寄人數ヲ夜押出シケル其道ニ

山涯海ハ有リ汐満ル時ハ山涯ヲ行ニ山上ニ石弩ヲ張り置

ヤ、モスルハ人數損テ定政此方ニテ人數ノ止メ件ノ路汝手

久ル時ハ山涯ヨリヨケテ遠テ瀕ヲ可押以テ又ハカトテ物見ヲ

被遣ニ見カ悪敷故ニ不分明定政ノ家先太田持資入道々

灌吾等参リ見テ参ラニト乗出ニテ其所迄モ不行乗戻ニ

以ハ干申候間人數出ニ可申ト云則人數押行ニ汝干テ遠

干厚ヲ安々ト押タリ定政道灌ニ向テ其處迄不行ニテ汝ノ

干タリト見ルテ如何ト問給テ道灌申候ハ古歌ニまきくみ

道くみくみの候もみ声ぬれ汝のこころいとはあふ

候カ千鳥ノ声遙々遠々聞候ニ分沙干タルヲ存知候ト云

タリケリ。同書卷ニ見

一 馬鏡ノ事茶土俵ウツホノ丁武隈叢話卷ニ云天正十八

年三月小田原御陣ノ時尾張内府信雄公駿河ノ三枚橋ニ

御陣取被成家康公長窪ニ御陣ヲ取玉フ三月廿八日ニ本岡

秀吉公三枚橋ニ御着陣ニ付御先手諸大名皆々浮島カ原
迄御進ニ被出信雄公家康公モ御出アリ秀吉公ハ糸緋
威ノ御鎧唐冠ノ御曹ニ金ノ太尉付ノ御太刀ニ振御帶キ
金ノ土俵空穂ノ上ニ征矢一筋指是ヲ付作髭ヲ御掛被成
朱滋藤ノ弓仙石權兵衛進上仕候ヲ御持被成金ノ瓔珞
ノ馬鎧掛丸七寸ノ御馬ニ石籬情ヲ振ニ御通リ下畧又同書
卷四云大坂御陣五月七日御合戦不始前方秀忠公ハ惣手ヲ
御巡見十廿ノ黒田筑前守長政加藤左馬次嘉明ハ熊ト無人ニ
テ此度御供則本多大隅守忠純備ニ合属ナリ七日ノ昼夜ニ
大軍漫々ト備々中ニテ誰ニトモナク將軍様御成ト言テ
立サハク長政嘉明ノ廿御目見セントテ道ヲ助一出名ハ秀忠公

- 一 御一騎ニテ黒キ御鎧山鳥ノ尾ノ御羽織御曹ハ不召様野
云五寸三分ノ御馬ニ孔雀ノ尾ノ馬鎧カケテ石ノ角頭中ノ
御曹ハ御持セテ廿ノ御傍ニ十文字一本御長刀斗其外歩
士二十人ハテクト御供ナリ下畧○右瓔珞ノ馬鎧孔雀尾ノ
馬鎧ト云ハ馬鎧ノ飾リヲ云ナルヘシ
- 一 土俵ノツボノ事右ニ見タリ天文三年固本美濃守縁持が記ニ秀吉此
既ニ此物アリ古代ニハナキモノナリ
- 一 妻子珍寶及王位臨命終時不隨者 大集經文也
- 一 悲華經ニモアリ
- 一 江戸奉公人三月五日出代リ奉其前ニ二月五日ニ出替リシカ
明曆三年丁酉正月十八日江戸大火事ニヨリテ其年三月五日

一 出代リスヘキヨシ被 仰渡松平伊豆守殿被申渡也史ヨリ
 毎年三月五日ニ成也武藏鏡ト云草子其外其比ノ記見ナリ
 一 禁中女房ニシフクト云事アリ腐鏡集云ゴブクト云ハ女房
 ノ下女也御茶ノ間程ノ者也額ニ アイロキナ 如此のものと髪は
 おちみそふのりゆくかきぬるゆへ額よこせとの也
 一 縣神アタタコ 降巫イナガ といふ六釜井之土の事とみふるの也
 地者ハ 腐鏡集見たり 地者の形職人尽歌合此條アリ
 一 まぐりの事 同書に源氏ホ白 まぐりと云ハ是こはまぐりかきも
 てカリトアル是ナリシカレニてカリトハ則鏡ノ字ニテ九ク柄ヲ付
 タルニ湯ニテモ水ニテモ入タリ呑ムてカリニハ柄ハナシ



夏文云此説如何下ノ和歌物語
ノ説一且カラン 此説イデカシ

一 禁裏ニテゆむんハ蓋ナト云ハカケバシノ小キ也
 一 片もく茶もむまのきつアヤキウのどろふかくはれり
くろんとふと云ニ馬疵狼狽尾長振入乱飛ト一條兼良公自筆
ニテ傍注アリ 同書ニ見タリ然
トモ用ヒガタシ
 一 古代サカツキハ土器ヲ用タリ又リ石具ハ古田織部カ作也小原益
 ハ小原権兵衛トイフ者元禄ノ此作出ス同書ニ又云トラサント云ハ
 土蓋也土蓋ハ廿一益ヲ一升ニハカルニ寸六分アリ
○銀閣寺ニ東山殿ニ取具ノ蓋トテ
七ツ入子ノ蓋ニ竹林ニ取具ノ蓋トテ
川朱丸ニ蓋ニ取具アリ東山殿
ハ又リ蓋ニ取具アリ
 一 餅ヲカキント云ハ京ニシハ物ヲ白ニシテ搗クヲカキルト云
 ツキヲ米カキト云搗餅故カ子餅ト云歌ヲ千ニトリタルト云説
 一 有甚俗説ナリ同書ニ
 一 天台宗ニテ大藏右中將大納言ナト新祭意ヲ云フハ昔ハ

〇詔之言之十ト
書ク一常ナリ
古書ニハ之詔之
言トアリ

親ノ大納言ナレ其子ノ新奈意ヲ大納言ト云是ヲ君名ト云キミナ同

一カヅキハ江ノテモアリ一ナリ昔岩向ハ三郎ト云十八歳ノ浪

人アリテ松平伊豆守殿ヲ子ラヒ女ニナリカヅキヲ著シユハ史ヨ

リ関東カツキ法度ナリ書ニ

一官家ニテ西局ト云ハ外記局ト云右辨局ナリ

一カハラケノ名如九

一カホチウサレタシ大重徑三寸五分 小重徑二寸五分貞丈ニ小チウハソカハラケノ

右小笠原長時ノ書ニアリ

一 小重徑三寸五分 大重徑寸九分 三度入徑四寸七分

五度入徑五寸二分 五度入徑四寸七分

右將軍家御土器師榊新左門調進ノ寸法也貞丈ニ用カケシ

一 嵯峨深草土器ハ曆ヲ以テ作ル 伊勢神宮ノ御土器ハ年タカクシ扶是

也武州江戸坂本入谷村ノ土器ハ口カ口ヲ以テ作ル也

一 昔々ノ御土器ハ口カ口ヲ以テ作ル也 昔々ノ御土器ハ口カ口ヲ以テ作ル也

昔々ノ御土器ハ口カ口ヲ以テ作ル也

一 白々ノ御土器ハ口カ口ヲ以テ作ル也 今ハ土佐ニモアリ内ニ

是福善ノ文字モ落龜ナトノ繪様ヲ高ク去スハ近代ノ御土器

一 射ニ五善アリ蓋蓋カ板卷ニ射ニ五善アリ 一曰和志射和カケル

ソ二曰和容儀カアルヲ三曰圭皮能中質四曰和頌雅頌合カフ

五曰興舞子舞同ト云リ

一 牛宿同書卷十四宿曜經云牛宿為吉祥之宿每日牛時ナカ直ル

是以午時為吉祥時又曰又宿曜經上卷云午宿吉祥也其宿星

形如午類又此宿下注云天竺以午宿為吉祥之宿每日午宿五
事故天竺曆以午時為吉祥大唐三帝牛六星上云又同
經下卷云二十七宿唐用二十八宿四國除午宿云瑜祇經卒
宿直日不簡日月吉山ト云
一 布濂星合日事同書卷十三云布濂星合日ト云何日ハ其
名是梵語也只鬼宿ト云也常喜院ノ秘雜教ト云布濂星合日ト
者梵語也唐三鬼宿ト云也和語ハ於尔保至ト云也廿八宿中南
方七宿第一宿是也ト又外書云此有一大星而無伴保星也是
星有光影而照時諸星滅也宿凡也夙夜也夜星也星精也又
下万物精也性也性神言布濂星合日者正月白十一日二月白九
日三月白七日四月白五日五月白三日黑十五日六月白一日

- 一 黑十三日七月黑十日八月黑七日九月黑五日十月黑三日十一月白
十五日十二月白十二日合也具ニハ大集經ニ見ハタリト云
- 一 母衣同書卷十二繩ヲ母衣ト書ハ母小袖十二トヲ繩ニ懸ケル
古事ノアル歟未其由ヲ不知事ニ侍ニヤ當ノ義ニ孩兒ノ在母
胎内時載胞衣以防諸毒也亦武士臨戰場時被繩以防敵矢
蓋是胞衣消毒喻也以此我母衣共書トコソ申シ侍ル者也臨内
ト戰場トハ生死ノ二時也○下学集云繩作母衣言孩兒在母
胎時頭戴胞衣以防諸毒也今武士臨戰場時戴繩以向敵
蓋喻胞衣消毒也母胎于戰場生死二之時也
- 一 西洋 トイニナリ 下学集注東司トアリ東司ハ廁之 俗ニセツ
トニナリ
- 一 皇懸 同書云最初懸笠射之後用皮的也

一 入眼 同書云日本世俗成就之義也 未見

一 濫吹 濫吹 同書云胡亂義也 未見

一 盪囊 於觀勝寺行卷作也 增補ノ塵添ト云此作者ハ天

文元年壬辰二月三日叙氏某比丘トアリ

一 下学集 作者文安元年甲子東麓破衲トアリ 增補ハ寛

文己酉年山照道回重顯トアリ 增補ハ近代ノ事物ヲ交

入テ故実ナキト多ク用カケシ

一 節用集ハ文龜年中ノ古板アリ 植字ニテ片カナ付ケリ其後

慶長年中ノ板本アリ

一 隱顯曾我物語ト云書五冊アリ 康正二丙子年初夏上旬

曾我常陸入道祐賀編誌ト序ノ末ニアリ 是偽書ナリ近

世ノ人ノ偽作ナリ文章ノ詞古風ニアラヌ一躰ノ書中様近

世ノ軍談物ノ風也且又卷一ニ藤下伊東蜘蛛之論ト云フ篇

ニ工藤庄司景光カ方ヨリ又金子備用セリト望ムト云フ

ト見タリ又同卷ニ自宗盛伊東一鹿皮就所望鹿狩之事

ト云フ篇ニ米二百俵黄金三百枚ヲ送リ玉フト云フ見タリ

曾我ノ時代ニ錢ハカリ通用ヒテ大判小判一分判ナク金

子通用ハ無之金子通用ハ慶長以來ノ事也然ルハ金子借

用黄金三百枚ト云フハ曾我ノ十郎五郎トノ代ニ曾我

ナキト也是ニテ偽作物ナルヲ辨ヘ知ヘシ文章ニ康正比

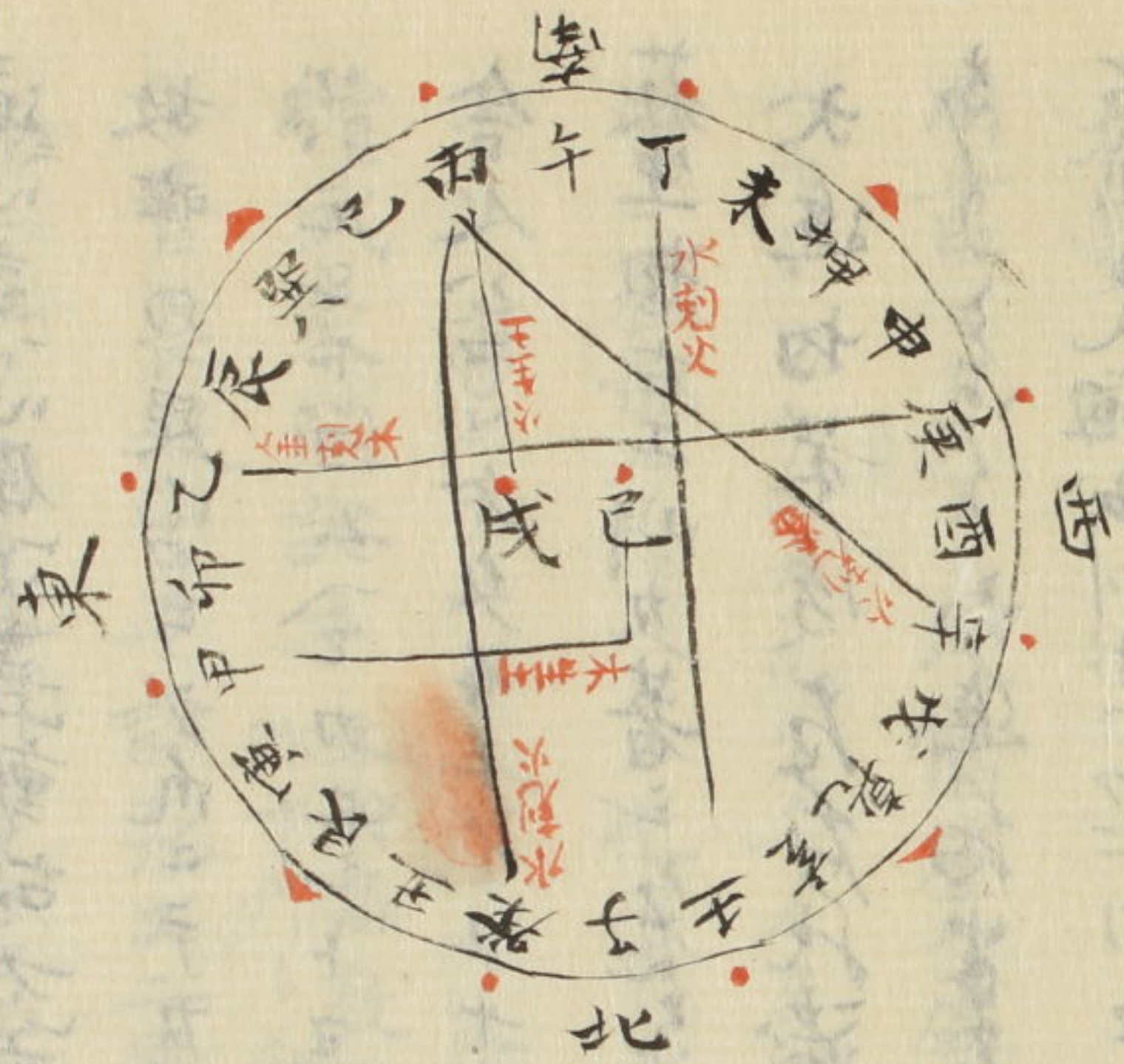
文躰ニアラズ又序文ニ不辨我家之與廢而猥鑄梓惑世ト

見タリ曾我物語ハ康正ノ比モ有シ物ナルヘケレトモ康正ノ比曾

我物語ヲ板行シタル下何ニ見エズ板行シタル近世ノ下也
是又偽ノ證據也

一年ノ惠方ノ事長崎西川求林齊カ著ハス所ノ教童曆
談曰歲德ノ方位甲丙戊庚壬ノ歲ハ陽干ナルカ故ニ直ニ其
干ノ方ヲ用ヒテ歲德ノ方トス乙丁己辛亥ノ年ハ陰干ナル
故ニ其歲ノ干ヲ對スル陽干ノ方ヲ歲德ノ方トス假令乙ノ
歲ハ庚ノ方丁ノ歲ハ壬ノ方ヲ主トシテ己辛癸ノ年準之陽
德ハ健強ナル故ニ其方ヲ主トリ陰德ハ柔弱ナル故ニ其
對スル處ヲ陽德ノ方ニ讓リテ主トルノ義ナリ神明ハ陽德ヲ貴
シトスル故ナルヘシ又十干ノ方位戊巳ハ中央ニ屬スルカ故ニ戊ト
癸トノ年ハ戊ヲ生スル方ノ丙ヲ方ヲ用ヒ己年ハ素申ノ方十

リノハシクハ二十四方ノ圖ヲ以テ考ベシ



甲巳ノ歲ハ寅卯ノ間庚乙ノ歲申
酉ノ間丙戌辛癸ノ歲ハ巳午ノ間
壬丁ノ歲ハ亥子ノ間也
私云
水 癸 對 火 丙 火 丙 對 金 庚
金 庚 對 木 乙 木 乙 對 土 戊
土 戊 對 水 癸 右 相 對 也
水 癸 生 木 乙 木 乙 生 火 丙
火 丙 生 土 戊 土 戊 生 金 庚
金 庚 生 水 癸 右 相 生 也

右相生也

乙ト云ハ兄弟也木ノ兄木ノ弟ニ以下推之
乙ハ土ト云ハ兄弟ノ方ト云フナリ 歲德ノ方ハ必
兄ノ方ニ當ルナリ

一 其ノハユヒト云字ハ痒字也宋ノ錢唐ノ王達カ所著琴瑟海集云
人之手心^カ抗而不痒人之足心^カ抗之則痒者何也蓋人、手心
通心氣心属火喜動故不痒人足心通腎氣^腎骨属水喜靜
故痒○足ノウラヲ爪ニテカケバコソバエキヲ云フ痒ノ字ヲハユ
ソバユヒトヨムヘシカユヒトヨムヘカラズコソバユヒト云フヲ田
舎人ハコソバユヒトイフナリ

一 荻生惣右エ門カ著シク名^ある^るト云冊子あり^て中^に
犬追相若後友在比治射^り古ハ半^りと月^ひらん
あり^と河^りか追相半^りと月^ひらん^の字^の
と^り但^がハコソバユヒトイフナリ^ハ古書^ノ數^多ノ中^ニ曾^テ無^ク之^レ荻生ハ唐^ノ一^ハ精^ク知^リタ
レトモ日本^ノ一^ハ甚^不吟味^ナリ^{あり}書^名一^ハ氏^間ト
推量^ノ説^{アリ}

一 同書ニカフトノ八幡座ハ盛旗ヲサス所也何者カ八幡座ハ
ツケタリケニカルクノカシコサトアリ上古ヨリ日本ニテハ
曹ニ盛旗ヲテヘシ^ハ名^一曾^テ無^ク之^レ盛旗トハ^等ニ^レ
ナリ唐ニテハテヘシ^ニサスナリ

一 續武家閑談云 木村高教作 弥十郎ト稱 伊勢伊勢守貞孝嫡子貞能^{貞能}
ト共ニ長坂山ニテ討死スニ男備中守貞運小田原ニ下リ北
条ニ仕^フ三男浴外^也岩山長床房祐圓ト稱ス權現様
名家断絶ヲ惜ミ至^ヒ伊勢下總守貞行カ子ヲ以テ祐圓カ
養子トセラ^ル其名ヲ祐怡ト云ニ代共ニ上ヨリ故實御尋

アリト云々其子祐仙也 祐仙子今、祐知ナリ ○貞丈梅貞能トアルハ

貞良也貞行トアルハ貞仍ナルヘシ又云貞良嫡子貞景 貞後ニ貞為

也貞景ノ子貞衡也 兵庫ト云 貞衡 大猷院様ノ御代召出ナル

今ノ平藏貞丈カ祖也 和智ノ家ハ嫡家ニハアラズ

一 諸竊日記或本ノ表紙ニ本書金沢称明寺ニアリ御用

寫下書トアリ享保年中將軍家求メ出給ヘルナリ

一 土佐山内氏ノ家臣ニ別府氏アリ別府ヲビフトヨムベツフトハ

ヨズビフハベフノ傳語ナリベツフトヨムハ誤ナレシ明和安永

ノ比別府傳丞ト云フ者主人土佐守用事ニ因テ予ウ家

ニ来タリビフト名乗ルナリ

一 烟草ノ事 和漢珍書考或曰 水戸儒士稿削 序ニ凡水戸儒士ノ言也

至強記博識之業胡美讓ヲ天下之學者哉以余之君之家士測世之學者肖泰山臨衆嶺鴻鶴然燕在殿殿万分之一乎若欲試之章嶽吳錦動魯石而來委落厥間教洋ニ學海津焉 貞丈云此言大誇笑非君子之言 曰或曰日本ノ説フタハ

コト云物ハ何レノ比ヨリ日本ニテ飲初メケルゾマ本南臺園ヨリハ

ヤリ来リテ今ハ朝鮮園ニテモテハヤスト見ヘタリ但昔ヨリノ

モノニヤ信答此多葉粉近來日本或朝鮮園又ハ阿蘭陀園ハ

カリ散アアノヤウニ謂習ハセリ カッテ 古来ヨリ中華ナトニ

テハサケナキヤウニ覺ヘタリ西陽纂要十七卷三十七枚目

見ニ昔蜀朝ノ使者揚州ノ馭館ニ在ニ時餐ノ食後玉盃 子イ

州ヲ持ニテ添之小管ヲ以テ巧ニ烟ヲ吹エムナト記セリ又西

域ノ玄律中華ニ入後漢順帝ニ一東香州ヲ獻シテ曰ク吾

邦ノ一州使口含芬煙ト云ヘリ然ル時ハ是等ノ故實ヨリ考

見ル時ハ中華ニ於テハ昔ヨリ 烟草ト云フモノヲ既ヨ事明カニ
録ニ中華ハカリニテモナシ此玄律ノ夏ヲ見ル時ハ天皇ニテモ烟
州ヲ春ト見ヘタリ倍是カラ見ル時ハ日本多葉粉ノ字蕭州ト
昏チモ苦シカレテシキヤカアナメノ烟州ノ蕭州ト云フモノト曰
本ノ烟州ハ文ニ違ヒケレトモ昏ヤウ蕭州ノ字モ假ルハキニ
ヤ世間ニテ此誤ヲ 不知故ニ色クノ宛字ヲ書也用ユルニタ
ラズ且玄律カ香州ヲ後漢ノ天子ニ奉リシトハ 如絶古今
ト云フ書ノ四卷ノ十三枚目ニ出タリ且見原氏ノ作和事始
ニ引本州洞釜此烟州ノ功討リヲ譽ム 珍書考偽説ト見ユ
ルト多ク信ニヤクシ
一 辨慶ノ事實録何ノ書ニモ見ヘスト云説アリ誤ニ東鑑卷
ノ五十四丁目ノウラニ曰辨慶法師以下彼是勢三百余騎トアリ東

鑑實録ニ作り物語ノ類ニアラズ

一 烟草ノ丁 和事始曰 見原好
古著 慶長十年 此乃ハ始テ日本
ニ傳ルモノナリ 諸人ニ之ヲ貴飲セタシトハ和創ヨリ
障外府志蓬漢於流ノ洪婆姑と稱ス又曰元和元年六月廿
八日將軍あるノ天下ノ命ト下して烟草を禁ムと禁じ
玉いハ此ノ事ヲ記シテ今ノ本林此ヨリ
ト云カケリシレノ又本草洞釜九ト云ニ今俗ニ飲
食ノうちやもこと酒茶煙草ノ三飲ハ昔より後ニ
香何カもあらざるもワキテ今ノ世ニハ酒ハ毒何
ト云ハカク飲む時ハ今昔何カノ医書中ニ云ハカ
ト云ハカク今ノ世ニハ酒ハ毒何カノ医書中ニ云ハカ

能くしめ、烟を焚くをさかしく喜ぶ事あり、ふくさくさくお
かし俗中、奴解のいん^{スウ}と呪ハ責^スくたらん、士君あつらん
の幸國の俗とあつらん、身よ喜^スりしものこと、このまはらり、
ハまをり事^スハ^ス。

一 初穂の夏、本朝語園曰、古代耕作をテ取收し、先是ヲ神ニ
奉ル、是ヲ初穂ト云、今、金銀米錢等ニ至ルテ神ニ奉ルヲ皆
初穂ト云、既ニ三代実録ニ貞觀十二年十一月山列葛野郡テ
錢ヲ鑄サセシ、近隣ノ諸社へ新鑄ノ錢ヲ遣セラシ、告文畧
ニ曰、仍新鑄作之、早穂二十文ト云。

一 室町殿ノ医師上池良^ノ源頼光五世ノ孫亮^{カト}角^{カト}ヲ坂三郎号
シテ和州ニ産ス、其後家系断絶セリサテ、後千九佛ト云者アリテ

彼家系ヲ嗣キ、医業ヲ興ス、其子ヲ十佛ト云、博學多聞ニテ、医
ヲ昌^{サカ}シテ足利尊氏ノ恩遇^{アツ}、其子諱ハ慧勇、又徒叟トモ号
シ、医術神通ス、其後子上池院、号ヲ賜リ、鹿苑院相國ノ寵
顧又厚シ、呼テ士佛ト号ス、字ニ^{ヒタ}从^{ヒタ}、一^{ヒタ}从^{ヒタ}テ十佛ニ續
ノ詔シ、又連歌ヲ能ク佳句トモ古菟玖波集ニ載タリ、本朝
医考ニ見ヘタリ、○右、本朝語園ニ在リ。

一 安當箱○狭箱○番袋、了續武家閑談云、^{本村孫十郎}信
長ノ時、近ハ安當ト云物ナカリシニ、安^高ニ於テ始テ出来ス、芋頭
ホドノ内ニ諸道具納ルトハ、僻^{ヒナ}支ナラントテ信セ、又者多アリ
キ、狭箱ハ漸ク寛シ、未ニ江^高ニ於テ出来ス、其前ハ、狭竹ト云物
シ、用ニ是サ、慶長ノ比、津田長門守始テ制シ、畢ス、葛籠モ稀ニ

シテ當番ノ諸士麻具ヲ木綿袋ニ入是ヲ番袋ト名付持テ遣
テ〇負丈云挾行トハ九竹ヲワリカケテワリ^ハ衣服ヲ挾^先
テ緒ニテ結ヒテ供ノ者ニ持セシトアリ雨露^ハ奴^レ土ホコリナト
カ、リアシキユハ後ニハサミ箱ヲ作り出シタリハサミ竹ノカハ
リニシタルユハサミ箱ト云ハサミ竹ヲ用ガル以前ハ衣服ヲ袋
ニ入テ持セシナリ是ヲ上サシ袋ト云今モ田舎ナトハ袋ヲ用
ルナリ上サシトハ袋ノヨミノタメニウフトキ糸ニテタテヨコナ
文字ニ袋ヲ刺スゴバンノ目ノ如クサスユハ上サシ袋ト云永祿ノ
比テテ上サシ袋ヲ用ユ其後ハサミ竹ヲ用ユ其後ハサミ箱ヲ
用ユルコトニナリタリ

一 舊事大成短ノ事桂秋齊カ^草草ニ云ク上野国黒瀧ノ潮

音禪僧也元肥前国ノ人ニテ美濃国ニ住ス館林ノ廣濟寺住職
其後大成經ノ古文ニテ不首尾ニ成上野ノ黒瀧山ニ轉住ノ由ニ是
等ヲ何カ聊カ古ク偽リ傳ヘシ物ニ取ソヘテ正部三十八卷 副部
三十四卷合テ七十二卷トシテ是古ノ聖德太子ノ著シ給テ真
ノ舊事本紀也ナト披露シケルカ子細有テ偽書ニ極リ
公義ヨリ此書ヲ禁止シ至フ件ノ大成經イケルトモナク這箇ノ
這ノ字ヲ用何レ這箇トツカフハ宋朝以後ノ俗語也聖德太
子ノ時代ヲ異邦ヘアツレハ階ニアメリ能思ヘシ七十二卷共偽撰
ノ證論アリトイハレ爰ニ畧スエトフヘカラス〇大成經ノ夏漫録ニ聖
一 絲煙 昆陽漫録云^{詩本文藏} 前年或人西土ノキサミ烟草一包
ヲ惠ムツノ包内小粟ニ云福建陳元礼向在浦城西関馬頭岡

張特上、項秉住生烟、發敗四方味甘、絲明色鮮、飭定向有異
路低烟、冒稱浦城者多、但買者真假難辨、今本端時設包內
小粟、凡賜顧者、認富有音記、庶不致冒、稱真假辨矣、謹阜
イックニテモ後世ハコトミナ使利ナク好ムナリ且ソノキサニ甚
ホソキユハ絲煙ト云ナリ

一 画煙 同書曰浙海欽州則例ニ倭ノ画煙ト云フトアリテ
シレハルユハ長崎ノ人ニ尋シニモハカメハ日本ノ烟草ヲ刻ニテ箱ニ
イレテ画煙ト云フ唐人ヘケル其後烟草ハ水ヲ打シメシテ目
ヲ重クシタリシユハ西土ニ歸ル船中ニテタハコクサレシニヨリテ今ハ
持ユカストナリ○同書末ニモアリ

一 日本扇 同書云我國ノ如キ扇也明ニ至テ我國ノ扇ニ習テ作ルコ

ト東西洋者ニ兩山墨談ヲ引テノス其文左ノ如シ兩山墨談曰采前
唯用團扇元初東南使者持聚頭扇人ニ皆譏笑之我國永
樂初始有持者及倭元真遍賜郡臣内府又倣其制天下遂用之
一 同書云阿蘭陀ノ黒六鐵漿ノ如シソノ方左ノ如シ五倍子二百五十
文程 桃膠^{モノヤニ}六十四文程 膠漿六十四文程 此三味細末 酥百二十
文 氷百日程 交合方三味ノ細末ヲ浸シ日ニ干シ用

一 同書云甲府縣原村西云峯寺ニ武田信玄ノ孫子ノ旗アリソノ旗
左ノ如シ孫子ノ旗長サ一丈一尺六寸 幅二尺三寸 疾如瓜條如
林侵掠如火不動如山ト云文字アリテ紺字文金銀ナリ諏
訪法性ノ旗長サ一丈三尺五寸 幅一尺五寸 南無諏訪南宮法
性上下大明神ノ文字アリ赤地文金銀ナリ日ノ丸花菱ノ旗ニ

アリ 赤地
紙黒

一 千尺ノ事 家語ニ孔子ノ云ク布子知尺布指知寸同書引

○日本ニ云オノカ
タカバカリナリ

一 同書云我國無馬ノ説後漢書ノ傳傳ニ我國無馬ト書タリサ
ハアルモキト思シ嵯峨物語ニモ我國ハ馬ナク西土ヨリ来ルト
アルハ西土ノ書ハ白クギンニシタルトヘタリ或人云嵯峨物語
ハ西土ノ説ニヨリテカレシモノナルヘケレハ必我國モト馬ナキト
云モ疑シト或人ノ言シニ父理也○按日本紀ニ保食神死シテヒ
タ井ヨリ牛馬ヲ化シ出サレシト見タリ又天班駒ノ名モ見タリ
神代ヨリ馬牛ハアリシナレベシ
前ニモアリ
一 荊藤 同書云東西洋考云荊藤蔓相被地無枝葉日

皮裏其外如竹皮剝之則落長敷大不值前代可繚乱トコレ
ハ今ノ荊藤トモユ

一 時分 同書云俗ニ何時ト云フ丁ツイツ時分ト云フモ西土ニヨルニ
ヤ無寛録ニ云ク時分猶言時也

一 支配 同書云胡三省カ通鑑ノ注ニ云ク支分也配録也支配猶
今人言^カ配トイフノ支配ト云モ此等ニヨルトモユ

一 烟草ノ事 混陽漫録卷六音木敷書本草彙言曰^{烟草}ノ字

烟草ナキユヘナリ我國ニテモ遠國ノ窮郷ニテハ烟草ナシニ竹
筒ノ口ヘ烟草ヲ入テ吸モノアリ今モ西土ヨリ来ル烟草ハ切
コト至テ細シテ絲ノ如シ

一 紅花深、結ヲモミト云フ、貞丈云モハモミ千ノ色ニ似タル工ハ十九ヘシ後撰集秋下、雁鳴テ寒キアシタノ露ナラハ立田ノ山ヲモミ出スモノハモミ出ス色ヲモミイタスナリ古今集ノ歌ニモモミツルトヨメル歌モミツルモモミ出ルモモミイツルヲ畧シテモミツルトモ云モミツルヲ畧シテモミ也ツトナト音通スルニモミナト云ナリ、紅結ハモミナ色ト云フ、ヲ畧シテモミト云ナルハ此事、和歌物語ニ見ヘタリ

一 和歌物語 桂秋科 御前ニテ 當座ノ短冊ヲ 標ニ答ニ懷ヘテ退キ本ノ座ニ着スルニ冷泉家斗子ニ持テ退ル、イカナル故トモミラス昔ヨリ如此ト廣豊卿ノ物語也

一 同書ニ雪玉集モトノ名ハ聽雪集ト云ニ道遙院殿ノ敬ヒテ

雪玉集ト後ヨリ云也彼集ニ条西道遙右大臣実隆公集ナリ

一 又云三折ノ短冊横ヨリノツイテ 題ヲ見ル也夫ニ題ノ下ヘ折也清書ノ時ハ上ヘナルヤウニ重ヌル也是道遙院以後ノ法也今禁中院中御會モ其通りニ定リ来リ 地下ノ欲學者ナト下折ハ秋ヲ書タル後モ下ヘ折又始ヨリ上ヘ題ヲ折ナトノ事有心得サル事ナリト中山大納言殿兼親卿ナル殿上人ニ御話アリ名ヲ聞ニ又云短冊ハ濃墨ニテフトク書カ故実ニ禁中院中ノ御會夜ニテ灯火ノモトニテヨミ上ルモノ也 扱短冊ハ女左ヘヨセテ書ナリ其故ハ一枚紙ヲ切テ短冊トシ人々ヘ渡シ秋ヲ書タル後ツキテ巻物トスルナリ其ツキ代ホト右ノ方ヲアケテ置故也後世ハ是ヲワカス童テクルトイヘトモツクト云フ心ヲ立スル

カガルヤウニ心アル人ハ今モ左ヘヨセテ書也堂上ニテモ薄墨
細字ノ短哥又ハツキ代ヲアケサル短冊有ハ宗直方ノ指南ニ
アツカラサル人ノ短冊ナリ是モ芝山ノ重豊卿語リ給ヒ
シナリ

一 又云園大納言基香ノ仰ラレシハ懐紙認ル事下ノ揃ハサル
マウニ認ルモノ也凶事ノ懐紙ハ下ヲ揃ル也或公家衆賀ノ
懐紙ニ下ヲソロヘテ書シシテ人々笑ヒ草ニセシテ有スヘテ
文ナトテ認ルモ下ヲ揃ヘテ書ハ賤ニキワサト度ク仰ハナ
シ百タル也

一 又云梅花春風秋霜菊花ナト熟字也のノ字入テ書ヘカ
ラズ旅ヲ書ニカヤウノ熟字ハのノ字入タラン人ハ賤ニカルヘシ又上ノ
句文字ニテカハハ下ノ句ノ頭ハカナクハヘシ下ノ頭文字ナラハ上
ノ頭ハカナクタルヘシ上下トモニカナニテカクハクルシカラズ上下ト
モ書出シテ真名ニテ書ハ心得タル人ノセ又夏ノ由水無瀬
氏孝卿ノ仰ラレシナリ

一 又云歌ハ詞ニイサミナクサミトヨミタル例ナシイサメナクサ
メトハ讀ニ地下ノ族ニナクサミト詠タル間ニ聞ヘテ其サミ
イヤシ光源氏物語ノ類ニモナクサメト書之変テナクサミ
トハ書スト廣豊卿仰ラレシ

一 又云其香卿仰ラレシ懐紙ヲ書時詠ノ字キハメテ真ニハ書又モ
ノ也行草ノ間タルヘシ公卿ノ懐紙真ナルハナシタトヒ書ヲ知
カル人書テモ御會ニ出ス懐紙十六宗匠家ニテ雜ニテ出サス

地下ノ懐紙真ニテ書名詠ノ字アリ追悼ノ懐紙ヨリ外真
ニテ書ナルモノソト御教へ下サレニテアリ

一又云歌袋ノ事ニ千ノク紙弄拵ラユルカ本法也行成紙ニテ作
ルソト故実ニアラス徒ニナクヤ蛙ノ歌フク口心ナキヲモ思ヒ入
ヤ此古歌ヲウラニ書モノニ水川ニテ久リ柱ニカケ置思ヒツ
ケタル歌ノ趣向ヲ入置袋ナリ昔ハ錦ナトニテモ制衣セシヤ江
訖トイフモ今ニ匡房ノ歌袋大和錦ニテ制衣セラレシヨシニハナリ當
時公家衆イツレモ大鷹鳥紙ニテ制衣セラレ、

一柴折ノ事柴ノ戸ノ跡ニユハカリシカリセヨワスレ又人ノ
貞丈抄西行歌ヨシノ山コソノシラリノアトカヘテミタミヌカクノハナラツチニ此等ハ左ノ三首ヨリモ并レリ又モヨクナリ
カリニコソトヘ正治二年ノ百首前中納言定家卿ノ歌也此
歌ヲ書弁ニシヲリニ用エモシ僧ナラハニヨリシテ習ヒニケ

リ十里人ノカハル山路ノ出ル月影 技木ニ如願法師トアリ
スヘテシヲリトイフモノアレトモニハナリノ略ニテ山へ入ルモ
ノ本ノ道へ飯ル時ノ心覺ノタメ所ニ柴ヲ折カケテ置
クツレニ准ラヘテウサキ短冊ヲ拵へ書物ヲ讀タレ時コ
レニテヨシト心覺へノ所へハサムモノトスルナリ技折ト書
タル誤リ也ト基香卿ノ話ニテ有ニナリ○貞丈云シオ
リノ寸法歌學者ナト傳授事トス笑フベシ心ニ任スベシ
一又云短冊トイフ丁 頓阿以後ノ物也トイフ説アレ也古来
叙位除目ノ時短冊申文ト云交アリ紙ヲ細クタテテ官位
ヲ願フ丁ヲ書弁ルニ 御堂関白殿短尺申文ノ多ク
アリケルヲ裏カヒテ歌カセ給ヒシト云丁 清女納言ノ白

記ニ見ヘタリ短又ノ名ハ叙位除目始リテヨリ以来ノ事ナリ

御堂殿ノ下ハ枕サウシハ見ヘスニサクニ
ウタカキシハハコラガウシニアリ

一 又云和歌黒土ツキノ事 物ノ名ニテキラズ熟字ニテキラズ腰ニテ坊ラス
トサハ覚ヘヌハ能シ世ニ教ル通リニテハ物ノ名熟字ツキニテモ加ル
一 一アリ是ハ後氷尾院和シテ傳ヘタマフト芝山大納言宜豊ハ書
給ヒシモノニ見ヘタリ

一 懐紙ト云フモノハ大昔ハナカリシ物也清和天皇其比歌紙ト云フ
モノニミチノク紙ヲ用ユト云フ 貞信公ノ記ニ見ヘタリト卯祭ノ
双紙ニ引タリ貞信公延喜前後ノ人也清和天皇夫ヨリ前ナリ
聞傳ヘテカセ玉フカ卯祭ノ双紙ト云フハ一卷アリテ作者知
レストイハトモ 清少納言ノ枕双紙モ双紙ハ卯祭殿ウツリトノセ

ラレタリ今ヤウノ物ニアラス殿ウツリトイフハ今モ食ノ訊フ邊追
トイフモノ 詞ノ餘風ニ 御堂ノ関白殿新殿ヲ造ラセ給フヲ
祝シタルウタヒモノナリ 以上和歌
物語秋登

一 江源武鑑ト云フ書ハ偽書也近江国坂本雄琴村農氏沢田
喜右エ門ト云フ者ノ子 一説ニ右エ門ト
云者ノ子ト 喜太郎ト云フ者青蓮院
法親王ニ奉仕シテ 禿童トナリ 学文ニ後ニ銀ノ茶碗ヲ盗
ミ賣ルテアラヒテ追出サレ回里ニ歸リ己レ佐々木ノ嫡流也ト
偽リ佐々木一系回ニ加筆シテ己カ先祖ヲコシテ且佐々木
家ノ日記ト偽リテ江源武鑑ヲ作りテ刊行ス又大系圖モ彼
カ作ニテ偽多シ又傳論語足利治乱記淺井日記異本圖チ
原軍記異本勢州軍記等モ皆彼カ作ニテ虚説也佐々木義実

義秀義卿ハ彼カ作りタ人各ニテ彼カ先祖也ト云其各ハ有
テ其人ノ身ハナキ者ナリ知ラヌ人ハ昔ノ人ナリト思ヘリ彼カ偽
作ニタラカサルナリ其以來彼偽作廣テリテ彼虚説ヲ用
クニ書多シ国家治乱記異本難波義記三河後瓜土記武家高
名記倭州諸將軍傳淺井始末記同三代記東国太平記日本
將軍傳諸家興亡記武家盛衰記東海道驛路鈴等此外猶多シ
一 熊野大神 出雲瓜土記曰熊野山郡家正南一十八里 有檜檀也所謂
熊野大神エノ文ヲ見レハ上古ハ熊野大神ト云權現トハ云ハサリシ
之社座
也弘法傳教十トノ本地垂迹ト云フ一ツ云テ神ヲモ佛ノ化身
也トスルヨリ何權現何菩薩ノ号ヲ吾國ノ神ニモ付タルナリ
八幡モ大神ナル菩薩号ヲ後ニ付タルナリ

- 一 造城 出雲瓜土記云菟原野郡家正東即屬郡家城名榎山郡
家正北一里百步所造天下大神大穴持命為伐八十神造城
故云城名榎也○城神代ヨリ右リ
- 一 領中 日本紀崇神十年ノ紀ニ見
- 一 玉津島大明神 交通姫ノ祓靈ト祭りモ多ク又玉津島
大明神ノ沙歌クニシテ 三ノク又ニケセト云ハ
れん 卷モおもしくさつゝのうゝかこ
貞丈按右北歌ハ玉津島ノ神ノ沙歌ト云ハル後ノ人ノ偽
作ナリ右ノ歌ハ玉津島ノ神ノ交通姫ノ祓靈ト云
皇代沙地あり右の歌ハけせとい又あし〜んを云
ありけせといハ佛志の現世の事と云ハ

佛者此ノ石の宗源視世壽世本此宗源分々宗佛
家より出々初之宗通眼ハ人皇二十代允恭天皇ノ時ノ人也
ハ時イマ夕佛法渡ラズ人皇三十代欽明天皇ノ時ニ始テ佛法
渡リ三十一代敏達天皇ノ時佛法盛ニ行ハタリ後代ニ渡リ
来ル佛法ヲ衣通姫ハ知リ給フヘカラズ然レハ此世ト云列々
たれんといふ詞ハミナリカク欲偽作ナルト知レヘ
ワカノウラヲ和歌ト取ナスヲ字音ナリ允恭世代ハ此
文字ハヤワタリタル後ナレハウタニ音ヲハ用ヘカラズ


一 入眼 古書ニ入眼ト云詞アリ下学集云日本世俗成就之義
也○貞丈梅是畫工ヨリ出タル辭歎人像ヲ画クニ初ハ眼精ヲ
點セス画成就シテ後眼中ニ墨ヲ點シテ晴ク画ク凡生活ノ物ヲ
画ク皆如此スルヲ画家ノ法トス是ヨリ轉シテ物ノ成就ト名メ
入眼ト云フナルヘシ

一 濫吹ト云詞古書ニアリ下学集云胡乱義也韓子云齊王好
竽吹者必三百人齊吹南郭處士不竽者請為吹竽王悅與食
王死後王又好之欲世人吹之南郭處士不能吹之逃去云々

一 落素 ラフサ 下学集云日本俗呼殘杯冷酒曰落素
一 別都傾宜壽 梵語也日本ホトキスノ名此梵語ヲ用トハ非ナリ
唐音ニテハ違フ也

一 同書ニ鞆馬木芽漬アリ木ノ目ト云フハアケビト云物芽ナリ夫ヲ
塩ニ漬テ細キサミタル也出羽國ニテ土俗四月出テ木ノ目ヲ取テ
菜トス 出羽人ノ
説ナリ アケビノ若芽ナリアケビハ通州ト云フモノ也曼ア
リテ樹木カラミツク葉ハ萩ノ葉ニ似タリ紫ノ小キ花アリ実ハ木

瓜ノ大志カ如ク熟スレハ咲ミワレテ内ハ肉紫ニテ其シ

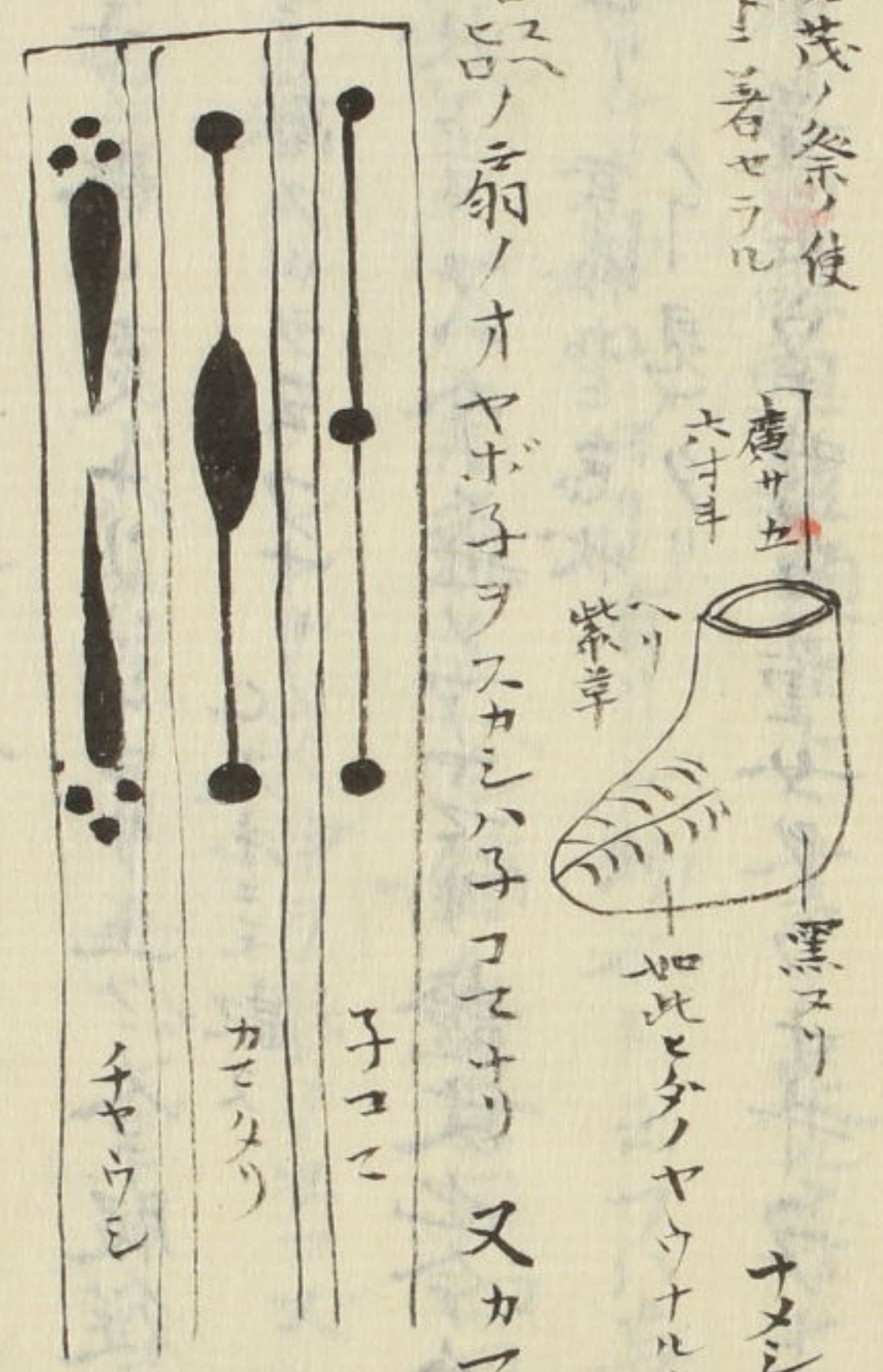
- 一 ナベトリ 冠ニ付ルオイカケ也其形下部者カテドニカケタル
錫釜ヲ取り揚ルニワラニテ組立物ヲ両手ニ持テシテ錫釜ヲ端ニ
當テ取り揚ル也手ヲ焼損セザラシガ爲ノ設ナリ冠ノオイカケ
其ナベトリニ似タル物ナル故田舎人ノ詞ニ冠ノオイカケノフツナベ
トリト云フ書言字考ニ綉オイカケノ字注冠具但俗謂之錫取
ト見ヘタリヲイカケ綉シタル冠ヲカフリタルヲナベトリ公家ト云フモ此
莫ナリ綉ハ馬尾ニテ作ルモノナリ  オイカケ如此
左右同シ
- 一 細キ竹ノ子ヲスバト云フ古今著聞ニ石泉法師クテマノ別當ニ
テカシコヨリス、シタクモウケタルヲ或人ノモトハワカハストテ
エノスバハクテマノ福ニテ候バサレバトテマムマデメサレナ

○讀文按ス、ノウ竹ト新古今ノ歌ニアリシカ可考

- 一 ナルヘシニ云 オニ帯 オニ扇 ナトイハル俗語ハ子カナヲミトヨミ
テオニト云事也張陽師ヲ 松ニナリシトヨム也ハ子ノヒ、キニシカ
ヨフ也トありベシ見ヘタリノ文按オニトヨオニナト云
- 一 花押 夜鶴各札抄此說時代相違ニ總テ判形平良時人皇五十五
代宇多院ノ御宇仁和元年將軍ノ宣旨ヲ蒙リシトキ判形ヲ
始タリ ○ナルヘシニ注 ありベシ云花押ハ名ヲ草書ニ書タルナリ
花押の上ハ姓ヲ書度ナリ今ノ世誤テ名乗ヲ書ナリ
庭割ナト見ルヘシ今ノ世ハ奉行ノ鞆面ニ私印ヲ用エ官印
ナキエナリ古ノ官印一官府ニツナラテナシ是ヲ日月ノ下
ニ押テ面ニ花押也官ノ文書ハナ物書役ノ書度ニテ名乗

書留メシ也カノ昔ガタリモ人ノ語り傳ヘシ異同アリテ一定ナ
 ラサルユヘ舍人親王日本紀ヲ撰ヒ玉ヒシモ一書ニ曰ト云テ諸説
 シ奉ラレタリ今神道者ノ云フ所神代ノ事ヲ目前ニ見ルヤウ
 ニ云ヒ儒佛ノ道ヲ取交テ道理ヲ飾リ説ナス下心得カキテ
 ナリ儒佛ノ道ノイニタ渡ラサル時モオウカラ儒佛ノ道ニ相合
 フ事モアリシナルヘシ多クノ人生多クノ人事ナレハオウカラカノ
 道々ニ似ヨリ名ヲアルヘシ伊弉册尊薨シタテヒテ後伊弉諾尊ニ面
 會シタテヒシ下ハ佛者ノ云フ所ノ幽靈ノ送ヒ出テ形ヲ現スニ似タ
 ル下ナリ又云佛道ワタリテ後佛者ガ神代上古ノ下ヲ佛道ニ合
 フヤウニ記セル如ク儒道渡リテ後儒者ガ神代上古ノ下ヲ儒道合
 フヤウニ書キテタル下モ亦有ヘシ大古ノ実事ハタニカナラヌ下也

一半靴ノ事



賀茂ノ祭ノ使
 十トニ著セラル
 廣ヤヒ
 六ナキ
 紫草
 黒ユリ
 ナメシ草ニテ作ル
 子ココ
 カミタリ
 ナヤウヒ
 カニ足公好タテヒシ由
 ニ品近世有之

一 婦婿ノ扇ノオヤボ子ヲスカヒハ子コトナリ又カテタリスカヒ下子スカヒアリ

一 二字ヲ奉ルト云フ下古今著聞ニ刑部丞義光ガ六條修理太史
 顯季ニ二字ヲ書ク来リシ下アリ又十訓抄ニ民部卿文範ガ
 餘慶僧正ニ二字ヲ書テ奉リシ下見ヘタリ又江談抄ニモ二字ヲ奉
 ル下見ヘタリ何レモ相論ナドシテ後二人ニ服従シテ其人ニ煩フ時

順

ニ吾カ名乗ヲ書テ奉ル丁ヲ云フ後三年物語家衝カ乳母
千住ト云フモノヤケラノ上ニ立テ声ヲ放テ將軍ニ云フヤウナジ
カ父頼義負任^宗任ノウキエスシテ名簿ヲサケテ故清將軍ヲ
カタラヒ奉リヒトニソノチカラニテタマク負任ノウキエタリト云
ソノ名簿ト云フハ名乗ヲ書キテ奉リ其幕下ニ候スルヲ云フ是又
二字ヲ奉ル支ナリソレヨリ上ノ人ニ服従スルハ其レニ名乗ヲ
書テ献スルヲ云フナリ。○又ホミ記ス

一 急状ト云フハ今ノ世ノアヤセリ證文也今急状ヲ乞フト云フ詞モ
残レリ 禁秘抄ニ急状
ノ丁見ヘタリ

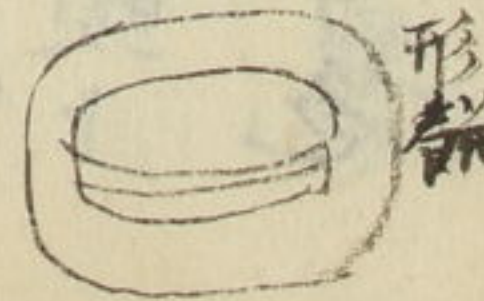
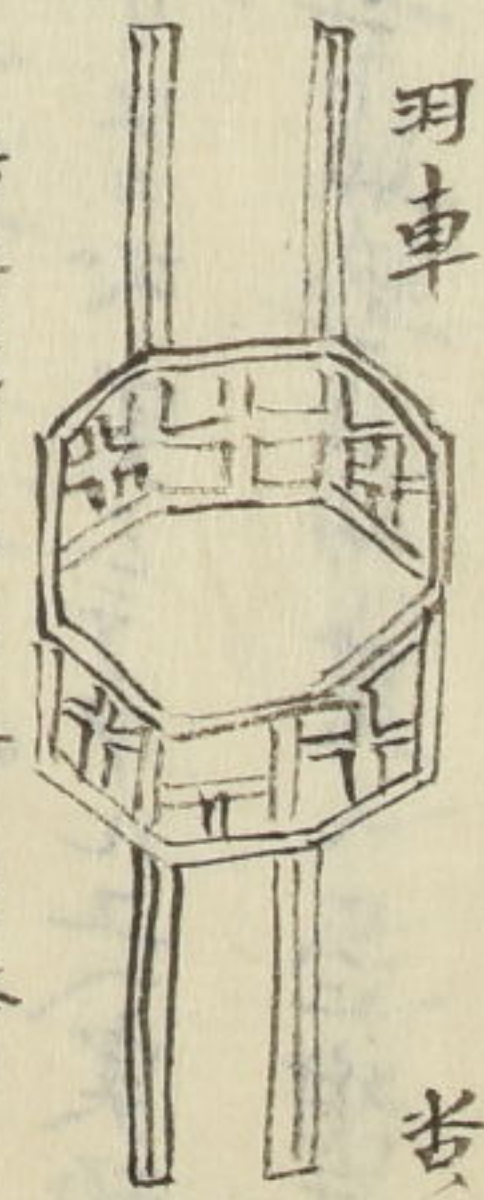
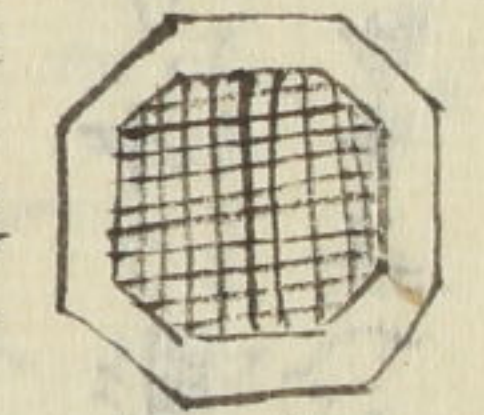
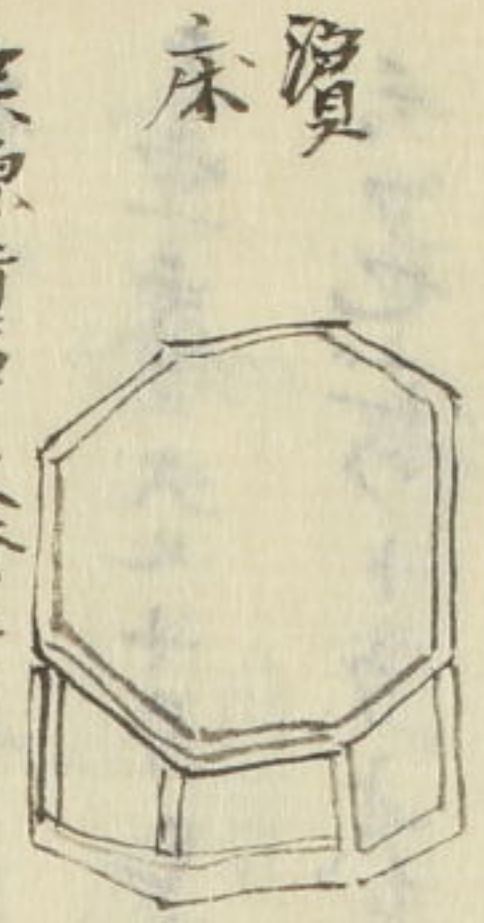
一 幼キ童^若ウナ井ユ童ヤツウナ井ヲトメト云フ丁ウナ井トハ
髪ノイマタ長カラヌヲ云フナリ 新撰字鏡ニ髭太史^欠反上髪至^テ
肩垂貞字奈井ト見タリ

一 矢頭神頭磁頭鏃頭十ト書テ定ル字ナシ 貞丈曰神ノ字ニ
附會シテ神代ヨリ有リシ物也ト云フハ妄説也證抄ナキナリ也
梅^ルニジントウハ実頭丸ニ鏃矢墓目四目十トハ皆中ヲ彫リ抜
テ空虚ニスルナリシントウハ中ヲ彫リヌカズ実ニテアルニハ実頭ト
云フ也ジツトウトハ云ヒニクキユヘジントウジツトウナト、云ニ付テ色
々ニアテ字ヲ付ケナリ

一 雁股ハ墓股也カヘレタラ中畧スレハカルマタ也ルトリ音相通ユ
ヘカリマタト云カリマタト云證ニ付ケテ雁ノ字ヲ付ケルナリ
一 尻部コノカウヘトヨム下字集云カ者ノ頭也云々頭^ナハ長^ナヲ云
一 青屋トハ京ノ詞ナリ江戶^ナノハ紺屋ト云古代ハ紺搦ト云ニナリ

一 染 神道名目類聚抄卷三 元禄己卯年野殿某作全六册 云染餅シ蒸シ煎シ熟シ
 一 七テワツカニ着テ雞子ニノ形ノ長キカ如ク作ル也ト云々 梅菜餅
 八九クシテ少長ナルヲ云兵庫録ノ太刀ノ鐔ナト是ナリ

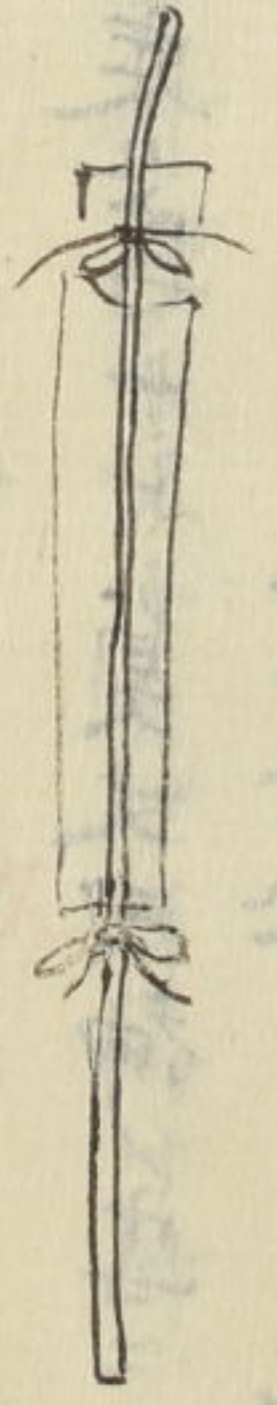
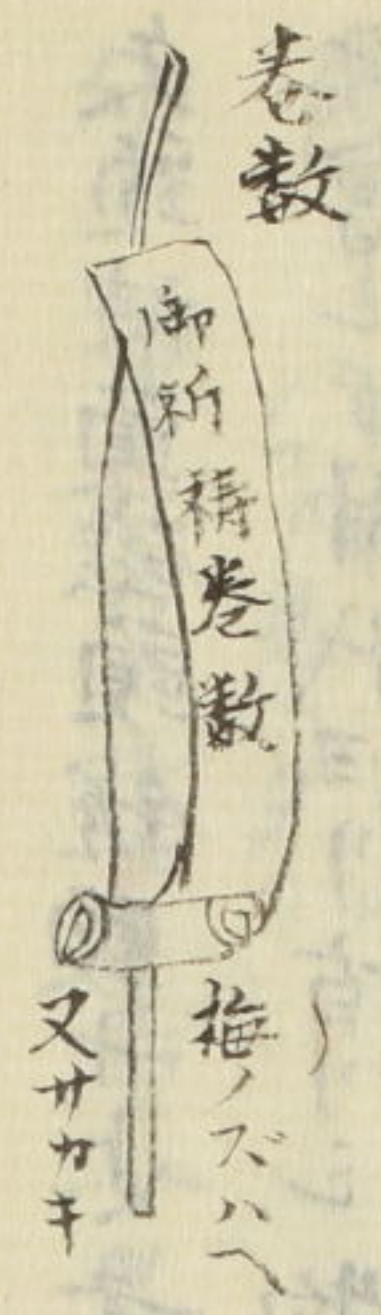
四事紀曰大己貴神天翠十大龍馬ニ乗テ毒ヲ不見何下芽滓縣ニ下行云々



宗源行事火祭行事ノ壇ニ前ニ設ル座ナリ

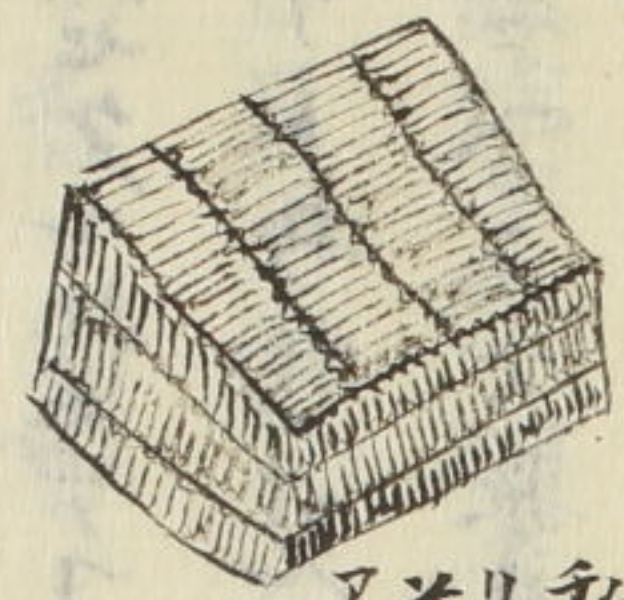
又四座ヲ并ツキ

諸社遷宮時神舞ヲセ奉リ渡御ナリ奉ル具ナリ



祈禱修行ノ後教遍敷行事等ヲ目錄ニシテ包ミ是ヲ梅ノ大
 二或ハ榊又ハ竹ノ枝ナドニ付テキクツワノ願主ノ方ニツクリツカハス

ヤナキハコ 柳筥



少半の俗ニ神ノ折敷ト云



餅米ヲ蒸熟シテ口ツカニ着テ雞子ノ形ノ長キカ如ク造ルナリ

一 二ガリノ事 秋齊カ和歌物語云 南嶺送橋ニモノス 六帖ニヒノオモ

テカリヲツグル夕月マメノアツギノ音モエマハ忘ル ワス 此歌ハ天子陪膳ノ女官唯今御膳モ濟カテ手長ノ人ニ余リテ御膳ヲスヘラカサレヨト知ラス為ノ扇ヲニツニツ折テナラス也ヒノオモノトハ毎日ノ御膳也ツカリトハスヘラカセヨト義也 眞文云退享ニ其陪膳

ノ女官ニ心ヲカケタル殿上人ノヨミシ歌也其弱音モ忘レズト
云フトノ詞ツキオモシロシサテ御膳ノサマノモノヒウゲ抄曲ト云
モノニテソレハ入テシリツク夕トハ砂糖ナドツ入ル曲物ノ大
キナルモ也是シテカリト云フ御膳ノ具ヲ入テカカルモノナレハ
也毎日御膳ニアタラレキヲ用ルエニ殿上ノ間ノ次ナル墨盤処
ニ多クアルモノ也ツレク草ニツカリニテ水ヲノミタルト云モ有ア
ハセタル此器ノナリニ神代卷下卷豊玉姫ノ段ヲ引テツルヘノナ
リト抄物ニ見ヘタルハアヤマリ也公卿ノ人禁中ニテツルヘヨリ水
吞ヘカラズ歌字トイフモノ禁中ノ事ニウトクテハ喰違フ
多シ○前ニツカリノ面アリ

一 祢唯 耳底記鳥丸光廣問 祢唯貞文云祢唯ト物ヲ云カケタル時ニ返詞スルナリ 祢唯ト書テイセウトヨム習也

一 深草ノ帝 同書ニ云深草ノ帝 夕ハフカクサ本ニムキテハフカサ
サトヨムト仰ラレキ

一 鉄炮茶 同書ニ鉄炮ノ茶ノ合セヤウ百エトセウノヨキニ惣悉ノ
香具ヲヨクアシキニハ惣ヲアシクスルカヨキニ我シオホヘタリ

一 聞香 同書ニ各香ヲキク習ハラニニヤクイ蘭香待ヲ本ニシテソレヨリア
サキコキ或ハキガカキナドニ分別スルナリ

一 桂秋斎初ハ多田兵部源義俊ト云フ南嶺子ト号ス秋斎カ
著セル書ノ中武門ノ事ヲ書メルハ多ク妄説ナリ神道官職
歌道装束ノ事書タルニ發明ナル事モアリ推量附會率
強妄説モ交リタル変アリ偽書ヲ引ク変モアリオホツカナキハ
引書モアリミタリニ心ヲユルシテ用ラレ又書トモ多ク知ラヌ人ノ

遂ハニコソナケカシケレ

一 貞丈云林道春ノ京ニオハセシトキハ五条ニ住居セラレシトソノ五經
 大全ナトノ跋ヲ書テ夕顔卷ト記サレシハ源氏物語ノ五条ア
 タリノアハラヤニユフカホノ花ノサキカ、リシ故事ヲ用ラレト見
 エタリ女ノ作りタルツクリモノカタリヲ本ニシテ夕顔卷ト号セ
 ラレシハ浅テシキ事ゾカシ五經大全ナトノ跋書レシハ似ツカハ
 シカラヌ又ナリ 儒者ニテ刺髮セラレシ又ナトモ心ヨカラズイタ
 ニシキ又ナリイカナル心ニテカ、ル又ハセラレシヤラムイトイブカレ
 一 貞丈云博學多才ノ人ノアラスシク名書ニハ何ノ一モナク手近ク
 シテ輕キ又ヲサテクニ説ヲ付テムツカシク重ク説ナレテ其

強附會ニ落ク入ル又ヲ自ラハ知ラヌナルハ心得ヘキ一也 浅智

短才ノ人ノ事強附會ハ忽チニ見破ラル、ナリ 博學多才ノ

人ノ事強附會ハ其説ノ巧ナルニ惑ハサレテタヤス見ヘカタニ

ヨム者浅智短才ニシテハ見破ル又成カタシ大ニ害アル也

一 カク十ワノ事 古今浴葦考江戸 後藤先生著 小麥ノ粉ニテ作りタル物ナリ

江家次子ニ加久繩一盃 貞云 杯次 トアルヲ久ノ字ヲ之ノ字ニ誤リ

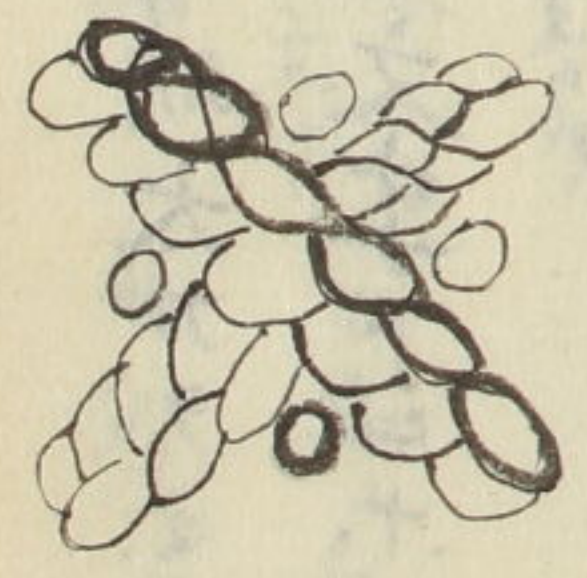
加之繩一盃ト点ヲ自ル一アサセシキ事ニヤ○貞丈云内膳司

ヨリ献スル供御ニカクノアハ今モアリ 和名抄飯餅類ニ結果

楊氏漢語抄云結果形如結々緒

此同亦有之今按加久乃阿和ト見エ

タリカク十ワト云ハカクノアワノ畧語也



カク十ワノ図

平家物語第三卷ハニ合戦ノ条ニ筒井淨明太刀ヲ又イテ戰
フニカタキハ大勢ナリクモテカクナフ十文字トシホウカハリ
水車八方スカサス切タリナリ 右同書ニ引ケリ

一 雲珠ノ事 飾馬ノ具ナリ 右同書ニ支木抄ニ定頼ノ歌ニ

是ヤコノ音ニキ、ワルウズサククアラマノ山ニサケルルニ袖中板

ニ雪珠櫻ハ唐鞍ノ雲珠ニ似タル鞍馬ノ緑ニトルナリトアリ先

生桜スルニウス櫻ハ今世手ナリ櫻ト云フ花ナルニ花葉ナクニケ

ク付キ盛リアゲタル形ナリ此形容ヲ何ニテモウズ高キト云

詞モ雲珠ヨリ出タル詞ナルヘシ〇貞丈抄ウズタカキハ雲珠ヨリ

出タルニハアラシ雄高ナルヘシ〇右沿革考ノ説ハ柏崎永以カ説

ヲ其門人後藤カ書付タル也巻尾ニ享保元年丙申三月日

持明院基辨御門人柏崎具元書於壺井氏富居トアリ

雲珠ハノナシト書ク溜ト堆ハノナシト
書ク也カナツカヒ差別アリ

一 安障図別ニ寫シ置タリ 此繪ハ靈元院ノ御屏風ニアリシ

ヲ柏崎永以寫タリト沿革考ニ見ヘタリ又古キ土佐繪巻物

ニアリシヲ壺井安左エ門寫シ永以ニ授タルモ有由同書ニ
見ユ

一 五六八九寸安乃郡トシ沿革考ニ見ヘタリ安乃書ハ

ハ那之阿武也合類節用云阿武ノ郡太平記作安郡長洲阿

武郡所出杉板也見藻塩草ニ〇藻塩草ニ見歌ニ長門ナル阿

武ノ郡ノソテ板ハモロコシ人モスサメガリナリ

一 馬ノフモガシノ事 或人問或書 枕葉拾葉集ニ入タル
カヤクキト云文ナリ 二牛ノ鼻繩サ

レ馬ノフモガシカケタルヤウニト云夏アリ馬ノフモガシトハ如何

貞丈答云ホタニナリ フモノ反ホ也ケリト云詞ヲケラントモ
云ラシノ反シ音リ也同例也和語ニ切音ノ語オノツカラアリ古
歌ニモアリ

一 五十集ト云事 續昆陽漫録補云大坂辺ニテ魚ヲ色ニイソバ

ヲ五十集ト云也 イソバ 越後ニテ四十集ト書アヘモトヨムコトハ

五十集ヲ博シテ四十集ト書ナルベシ

一 上総国ニ古府里村ト云アリコシヤテ村トヨムニ 貞丈按古射

呈ヲ察リ来レル歟字相似タリ万里小路ヲテテノ小路トヨムモ万
呈ニテハアラハル歟

一 乱管或覽管故実拾要云是節會等ノ時山具命ヲ入ル

管也但管ハ骨柳也○貞丈按源平盛衰記藻葛箱ニ奉

入所ノ宣旨袋ヲ受取又下文ニ覽管ノ蓋ニ沙金十兩入テ返ス

一 雲脚臺 右同書ニ 貞丈云源氏物語ニ 是禁裏院中へ奉捧物ヲ

載置座也雲脚臺トハ足ヲ雲ノ形ニケリ立ル物也都テ禁

裏院中へ捧クル物ノ其臺ハ雲脚ニ調ル物也

一 御曹司 御方 オカタ 同書云是堂上諸家中ノ息屬住ノ間ヲ云フ

近代御方ト云○貞丈按室所將軍ノ比御嫡子ノイニ父家

ヲ継キ給ハ又間ヲ御方御所ト云シモ是也又按曹司ハ有

司ノ役所ヲ一ニヤリノニシ切テ置ラ云房ト云フモ是ナリ子息

ヲ其役所ノアキタル處ニカリニ住居サセ置ク意ニテ御曹

司ト云フナリ

一 歡樂 同書云是於堂上諸家用詞也或元服拜賀婚姻

等都て祝義有之時所勞アル人ノ方ヨリ其祝義アル人ノ許一
消息或使者等ニ申送ル詞也其先々祝義名ニ依テ所勞ヲ不云
歡樂ノ子細有テ參賀セズト申シ送ル也○貞丈云歡樂ト云
病苦ト云丁ノ替へ詞ニ梨子ヲアリノミト云カフル類ナリ

一 公家童形 同書云元服以前公童ノ髮ハ常ニ切レ更ナシ長クニ
餘ルトイハレ延置也是ヲ常ニ結フ時ハ髮ノ元ヲ取揃へ頂ノ上
程へ上ケテ結之其末ヲニツニ分ケ額ノ上程ニ九ク西脇ニカテ輪
ニ結之也

一 不飾門松 同書云是禁中並堂上諸家中モ正月門ニ松ヲ
不飾也於諸家中ハ注連ヲ引也於禁中ニ者猶不引之也注
連トハ繩ニ紙ヲ切り垂ル物ナリ

一 正月飾 三方 同書云是堂上諸家中正月三方ノ飾ニハ麩斗鉈
昆布二種ヲ切テ硯蓋ト云物ニ盛り白箸一膳ヲ添テ三方ニ
載之也年始對客ノ時件ノ三方ヲ主人ノ前ニ備ル時主人箸
ヲ以テノシコシテヲ挾テ客ニ進終テ引之也硯蓋トハ硯管ノ打
カアセノ如キ蓋ナル物也梨子地高蒔繪金沢懸等アル物也云
○貞丈按是古式ニハアラヌ近世公家貧窮ノ畧礼ナルハ公
家作法モ今ハ畧礼其方々バカリ也

一 宮躰 同書云上ハ如袍下ハ指貫著袈裟參内之時如此宮躰ハ
紅衣ヲ著スルヲ云○貞丈按東鑑ノ袈裟同之キウタイト云フ
衣ナリ色ハ色々アルハ紅ニ限ルニ又同書ニ宮躰ノ時檜扇其
外ハ蝙蝠ナリ ○別ニ蓋アリ

一 河豚魚ノ毒ニ中リタルニハ砂糖ヲ湯ニカキクテ、吞ヘシ也也牛
馬同ニ見ヘケリ又青砥ノ粉ヲ水ニテ吞モヨシ 砂糖ハカワヲノ酔ヲ
モ解クモノナリ 南山顯子ニ見ユ
一 海鏢蛸^{イカ}墨^{スス}六地ノ毒ヲ解ヌ也其毒牛馬同ニアリイカノ毒ヲ取
テ乾シ貯置ヘシ

一 五六錢ノ右明解ナシ諸説多クレ推量ノ説取ニ足ラス 貞丈モ
亦推量ノ説ナリ鉄ヲ鑿^ウ骨ヲ作り其骨へ木ヲ挟ミ合テ作り
タル物ナハ鉄ト木トナカラテ合スル意ヲ合カノアフミナレシソレヲ
五六ト書タユヘ知ヌ又一ニナリトナルベシナカラト云字漢音ニテハリ
ヨク吳音ニテハロケトヨム也 下其骨ノ毒ヲ出ス

一 參河後風土記ハ二階堂松齋ト云昔ワ平岩主計頭ノ名ヲ假リテ
作りタルナリ

- 一 甲陽軍鑑ハ小幡勘兵衛カ高坂彈正ノ名ヲ假リテ作りタルナリ
- 一 信長記偽名トアリト大久保彦左エ門カ參河物語ニ見ヘケリ
- 一 丸木弓 今川ヲ俊道行方ノ物ト 生まるる 志不扶^シまらる^ル 本朝傳説ニ引
のゆこころハキクありともカ少佐^シ何れ
- 一 殿中 史記云以張武為郎中令令行殿中^ヲ ○中興書云羊祐
入直殿中^ニ 同書ニ引
- 一 書院 唐史云玄宗置麗正書院聚文字之士^ヲ 同書引
- 一 新造 江家次第云以當任新造之數見分於前司無實之數
○平治物語云之タク新造ノ内裏也 ○續草庵集云將軍
家新造ノ亭ニテ ○周防記云大内義隆新造ノ屋形ヲイトナ

ミトアリ ○以上同書月 ○貞丈 梅ヨメノ事ヲ御新造ト称スル
モ其ヨメノ居所ヲ新ニ建タル故ニ云フ也再ノ新艘ニ本ツクト云フ
説アリ 迂遠ノ説ナリ用ルニ足ラス

一 女郎 本朝俚諺ニ白樂天詩ニ木蘭曾作女郎来 濱盤 杜牧詩

女郎捺乱送秋千 五車 韻瑞 北夢瑣言云一日見一女郎 〇貞丈

按今世女ノ事ヲ女郎ト云ハ是等ニ因レリ上臈ノ字ヲ用ルハ非

ナリ上臈中臈下臈ノ只女ノミ限ルヘカラス女ニ上臈中臈下

臈ト云フノアルハ官女ノ位ノ上中下ノ分ル者ナリ又今世買妓ノ

事ヲ女郎ト云フモ女ト云フ支ナリ上臈ト云フ支ハアラズ

一 天狗 癸辛雜識云丙申十月十七日冬到是秋三鼓有大

聲如發 たか 火炮震動可畏雞犬皆鳴或云天狗墜故也 同書 是ヲ

見ハ天狗ノ事 西土ノ書ニナシト云フベカラス

一 オホケナキ ○買加ナキ ○サカナキ ○天骨ナキ テニホキ ○貞丈按此等ノ

詞ニナキト云フハ無ノ字ニハアラズ也ノ字セリトキ五音相通ナリ

也ト云フコトナキト云ヘルナリ無ノ字ト云フハ語意大ニ違フナリ

此事知ル人スナシ買加ナルサカナルナド云フ支ナリ

一 傳馬 漢書註云馭馬曰傳馬ト 本朝俚諺ニ引

一 捧二字 前ニヨリ 密嚴上人行狀記云六條判官源為義二字敬手 ウサケル

上人状ニ云 為義 保延五年己未六月十日 正六位延尉源朝臣為義

俗ニ二字ヲ帶セル二字ヲケニカケ在ナト云リ

右本朝俚諺
ニ見ハタリ

一 暮露 ちるくは ちるあふり物有り 近世頭号と改メ

以意上人皮袋 同書ニ見

一 鴨搦曉筆ト云フアリ一条兼良公ノ作也 一名曉筆記ト云

一 食物異名 海人藻艾 連年院 僧正記 云々 元服移徒以下

祝の酒者公るべし 三献あり 後光嚴院御愛酒少くむし

り多敷常より酒宴ありて 粒献あり 及び沙代より粒献加

増しそ 所より五献七献九献とて 少しより後之進きふ

ろハ酒の名と九献と申合りて 裏仙洞より一切の食物

異名と法けて免さる酒ハ九献毎に供仰條ハかちん味噌ハ

むし塩ハ白粒豆腐ハかちん老人ハ細子の松茸ハま川鯉ハ

こもと 新ふりて 轉ハ注りて 供仰條ハ けりしはくさ

らびハワラ葱ハしら菜とちりぐり つぎふりて ちりぐり

ハを引金と引しとす

一 金沢文庫並足利学校ノ事 ○ 鎌倉志云 称名寺 武州金沢ニアリ 鎌倉並薩

ハ金沢山ト号云其阿弥陀院ノ後ノ切廻ニ其前ノ富文庫ノ

迹ニ昔ニ北条越後守平顯時此所ニ文庫ヲ建テ和漢ノ群書

ヲ納メ儒書ハ墨印佛書ハ朱印ヲ押ニ印文ハ楷書ニテ金沢文

庫ノ四字ヲ墨書ス後ニ上杉安房守憲実執事ノ時 再興ス

○ 鎌倉大州子ニ武列金沢ノ学校ハ北条九代ノ敏昌ノ昔学

問アリシ旧迹也 ○ 上列足利ノ学校ハ永和六年小野篁上野

ノ国司トナリシ時ノ建立ナリ 至徳永六年凡 八百五十年金 今度安房守憲実

足利ハ公方御名字ノ地ナレハ学領ヲ附シ諸書ヲ納メ学徒

ヲ憐愍スサレハ此北諸国大ニ乱レテ学道モ絶タリシハ此ノ

金沢文庫ヲ再興シ日本一所ノ学校トナレ西国北国ヨリモ

学徒多ク集ルトマリ 管領源成氏ノ時ナリ 其後ハ 額
敷ニテ書籍皆散失ス 一切經ノ切レ残リタル 弥勤堂ニマリ
ト亦義堂ノ金沢藏書ノ作文有リ此レニセス○又山口本ト
浅草文庫ノ書アリ此時代イマタ考ヘス○右辨疑書目録見
一 片假名ニテ物ヲ書クニ心得ヘキ者 貞丈云百千ノ千ハナリ

又ルヲワカノ千ニ紛レ 眞口ノ口ハイロハロニ紛レ 二三ノニ字イ
ロハニホヘトノニニ紛レ 朝夕ノ夕ハヨ夕レソノ子ナ冬紛レ 占トノトハ
イロハニホヘトノニニ紛レ 勇カノカハナリ又ルヲワカノカニ紛レ 甲子ノ子
ハヨ夕レソノ子ナノ子ニ紛レ 九十ノ十ハヨ夕レソノ子ナノ子ニ紛レ 市
井ノ井ハラムウ井ノオクノ井ニ紛レ 工面ノ工ハヤケケフエテノ工ニ紛
レ 支千ノ千ハヤケケフエテノ工ニ紛レ 三四ニハアサキエメシノミ
ニ紛レ ヒ首ノヒハエヒモセスノヒニ紛ル 片假名ニ真字ヲ交ヘテ書

クニ紛レテヨメカヌルナリ 書クトキニ心ヲツケテカクヘシヨムニ
モ心得ニヨムヘシ事ニヨリ 文ノツキニヨリテハ紛ルノ字ハカナラ
ツケタルモ宜シカラン

一 庭訓往來尺素往來 等ノ往來ノ字出所史記云趙高聞其文
書相往來 右本朝俚語
一文層ノ下

一 女房 男房 源平盛衰記卷廿四壹岐判官知康方鎌倉御所
ニテ手鼓ヲ打タル事ヲ記シタル 女房 男房 心ヲ澄シ落涙
スル者モ多カリケリト見タリ或書ニ此文ヲ引キテ女房ノ字
ヲ付テ云フノミニアラズ 男ニモ女房ノ字付テ男ニ房ト云フノ古ハ
アリシ也ト記セリ 是ハ男房ノ詞ヲ実正ノ支トシタル説ニテ

誤ナリ盛衰記ノ外古書男房ト云フ一見エス男房ト云フ夏ハ
ナキ一ナレヲ女房ト云フ次ニ男房ト云ハハ戲言也男女ヲ並ベテ
云トテノ戲シ詞也是ヲ真正ノ詞トシテ證拠トスルハ愚ナリ但侍
中君要ニ男房トアリ藏人ヲサシテ云
今昔物語卷一其方ハ
伊豫箒 寛連ノ条ニ前ニシル 契沖雜記云詞花集惠慶秋ノ
ゆり清女納之ハよきもいりり庭創性来しるなり

一 衛府ノ太刀ノ鐔ヲフンドウツバト云フハ俗ノ名ツケル也
○今伊豫箒金箒と云物彼國ノゆりり箒と編りて之也古ノ名ハ
是ヲシトキツハト云フ説アリ誤リニ染鐔ハ



如此ノ形也分銅ノ形ニ似名エ俗ニフンドウツバト云フ

是ヲシトキツハト云フ説アリ誤リニ染鐔ハ
ツバノ名也染ノ一ハ前記又如シフンドウツバノ本名詳ナラス貞丈
按スルニ古代ノ太刀ニ鐔トイハバ皆フントウツバニテ外ノ形ノツバハナ
カリシユハタツバトノミ云シナルベシ後ニシトキツバヌアフヒ
ト云フモノ出来シナルハ後代ニ至テ獨品トノ形出来シユハ衛府ノ
太刀ノツバ名ナクテハニギル、エハフントウツバトヨヒサラハニナル
ベシ古代ハ外ノ形ハナキユハタツバトノミヨヒシユハ別ニ何ツバト云フ
名ハナカリシナルハ其本名ト云フ夏ハアルベシキナリ

一 張鞆 練鞆ノ一ノ張鞆ト云フ木ニテ打名鞆橋ヲ滑草ニテ
包ミタルヲ云フ今世此張鞆ノ一ヲ練鞆ト云フハ誤リナリ練鞆ハ
前後ノ輪居本共ニ木ヲ用スニテイタメ草ヲ幾枚モカサ子ト云
ツケテ依リ其上ニ滑草ツキセテ包タルナリ 練鐔ト云フ鐔
モ同ニ作りヤリ也練鐔ト云ハ草ヲ重名ニ練物ヲ付テ草ト草
トヲ合セ固ムルナルハ練物ハ漆ニ小麦粉膠トヲ子リ合セ

トヲ合セ固ムルナルハ練物ハ漆ニ小麦粉膠トヲ子リ合セ

用ル歟土佐人ノ談ニ土佐山内氏ノ家臣ニ完^助三島右エ門ト云
 フモノマリ 父助左エ門ト云 昔ヨリ代々草鞋トテ古キ鞋ヲ持
 傳ヘタリ常ニ責馬トドニ用シカ後ニ所ニ損ニタリニ其損
 シ名破目ヲ見シハ中心ハ厚キ草ヲ重子テトケテ名物トテ語
 リキ是練鞋也張鞋モ練鞋モ面ヲ滑草ニテ包ヒテ混雜ヒテ
 張鞋ヲモ練鞋ト云ニ誤ルナルヘシ

一 平家清盛ノ臣セノオノ太郎ノセノオヲ東鑑盛衰記等ニ妹
 尾ト書タルハ誤也妹^{イモ}背ト云フヲ取ケカハタルナルヘシイモセハ元
 妹^{イモ}元也背ノ字ヲ假リテ妹背トモ書ナリ万葉集ニ妹^{イモ}背^{イモ}ト云
 山ト歌ニヨリ類聚国史ニハ備中ノ国背尾トアルヲ見レハ
 背尾太郎ナルヘシ此章 本朝俚諺卷一妹背ノ章ニ見ヘタリ

今其要ヲ摘テ記ス妹ノ字ニセノ訓ハナキナリ

一 五六鑑骨ノ面



此骨ノ内ノ方ニ三ツアリ 其ニソニ
 木ヲ入ルナリハトム子モヤナイバモ
 皆木ナリ
 五六合カナルヘシト云フ前ニ記
 内外ニアリテ木ヲハサム
 鉄ニ骨ヲ作リ骨ノ骨ニホラ扱ニ
 入レテ作リタル物ナリハ鉄ト木トカラハス
 一ニテ合カナルヘシト云フ前ニ記
 一本

一 徒然草ノ事 新井白蛾 祐登 所著ノ牛馬問ニ云ワシク中
 ヲ氣好自編ルヤウニ思フ人多ク然ラズ是ハ氣好カワラ
 ハ命松丸トイヒモノ後ニ今川了俊ニ仕ヘタリ了俊或時
 命松ニ兼好カ歌ナト残ルモノ有ヤト問レニ多ク草庵ノ聲ニ
 ハラレテ侍フコトモ候ヘトモカクニ重宝イタシ申ト語りケレハ
 尋ナセヨトテ吉田ノ感神院ハ命松丸ヲワカハシ伊賀ノ草

庵ハ伊豫太郎光貞トテ歌ノ心モアリシヲツカハシタウ子ニ
ニ歌ハ伊賀ノ草庵ニヤウク五十枚ばかり集メ又今ノツレク
草ハ吉田ニテオホクハ壁ニハラレ又經卷ナトヲウツセシモノウテ
ナトニ書捨アリシヲトリテ来リ又ソレヲ了俊兼松ナトトリ
揃へ又命松カ許ニアリシヲモ集メ歌一冊草子二冊トハセリ
此時題号ナキユヘ發端ノ文字ヲ取徒然草ト題セルハ今
川了俊ニテソ有シ

一 又曰兼好法師曰八月十五日九月十三日ハ晝宿ニ當ル此宿
清明故二月ヲ散フ良夜トストイヘリ今梅ルニ晝ハ二十八宿
ノ各西方七宿ノ一ニテ金方ヲ主ル故ニ清明トス理ニ於テ似
タルヤウナレトモ 二十八宿ヲ以テ日ニ直ルニ中華ノ書

七改墨曆等ニ據ルニ年々不同シカレハ兼好カ説ハ不經事也
信スベカラスト佳節録ニ見ヘタリ予常ニイフツレク草ハ
雜説集ナレハ誤ル莫モアリ又取ニ不足説モアリ然ルニ近代
モテハヤシ牽強附會ノ理窟ヲ催シトクニシク注解ヲ書キ
編シ我ニ劣ト櫻木ニ彫ルコソオカシケレ兼好聖人ニモア
ラズ一言一句何ノ事々来曆ヲ踏テ味ニ深長ナラニ久人偶然
トシテ似タルモノアルノミ

一 牛馬同ニ云ム口ト云フ本漢谷不知京都近辺ニハムマヤナキ
トイフモノニテ牛ノ鼻ニ貫キ用ユ此ハ一ヤナキモ和本ニ漢
土ニ於テ見證ナシ

一 貞丈云厄年ト云フ是人ノ氣ニカケテ祈禱ナトスル莫ナリ

十九二十五三十三四十二ラ厄年ト云フ十九ハ重苦ト云フ心
也廿五ハ五五二十五ト云フニヨリテ五々ラ後ニ重後ト取ナシ
死後ノ古又トシテ忘ム三十三ハ三三ト重ナルニ敬々ト取ナシ忘
ム也四十二ハ四二トツクエハ死トトリナシ忘ム也昔物イマセヨ
リ用テラケモナキ一ナリ 婦人ナドハ愚ナルユハサモアルニ
男ナドノ氣ニカクベキ一ニハ非ス且四十二ハ一ツ子トテ四十二
歳ノ時ニ生ルタル子ハ父ヲ害スルトテ或ハ子ヲ捨テ又ハ他人ノ
子ノ分ニシテ他家ノ氏ヲ名乗テスル一ナドアリ大ニ愚ナル一
ナリ賤キ者ノ愚ナルハ云フニモタラス歴々ノ人ニモカヤウノ一
ヲスル輩アリ笑フベシ

一 節用集 舟疑書目 植字板ノ部ニ
真書本ニ冊 文亀ノキトアリ 文亀年中ノ古板 アリ南部
都 鑊

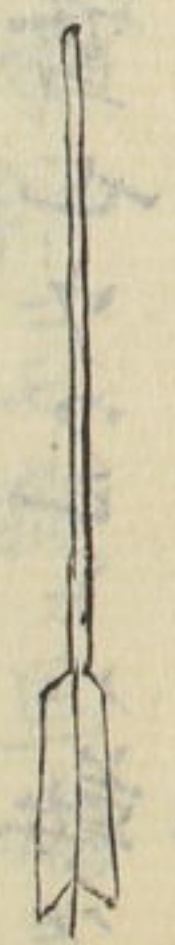
頭屋宗仁作也此宗仁ハ林和靖ノ後也ト本朝書籍目錄ニアリ
一 説玄惠作虎園作ト云フハ非ナリ

一 異制庭訓一名遊学往來ト云フ是モ玄惠作也ト舟疑書目
ニ見ユ虎園作ニアラズ

一 工匠人ヲ職人ト云リ職ノ字用ルハ非也 諸工人ヲ書トト
續翁同答ニ見ヘタリ可用也

一 土佐人ノ談ニ曰土佐國ノ渙人園夜ニイサリト云フ又ラスルニ
夕イ松ヲトホシテ墓ノ油ヲ巾海ニ注シ入テ夕イデワニテ照
セハ海中ノ魚明ニ見ユルヲカナツキトテ

如此三岐ニテ 逆懸瀨アル物ニテ魚ヲ突テトルナリ 墓ヲ漆ヌ
リノ盆ニシテ 朝日照セハ油出ト云海中ノ物ヲ明ニ見ル一軍



用ニモナルニキ事ナレハ記之試テ用ヘキナリ 水底ニツナヨハリ又サカモヤナト有

見ル

一 移鞍 和鞍藻塩草云ウツシ鞍前驚セウツシトハ鞍谷

也朱サニタルナリヤトクヲト云フハカ子ニテフクリシカケ谷

ナリ源氏。〇按移クテハクウホ子ハカリノ名アラズ諸鞍日記見シ

一 太平記卷九六波羅攻ノ条ニ云城ノ楯ヲ見渡セハ西ハ羅生門

ノ礎ヨリ東ハ八条河原辺テ五六八九寸ノ琵琶ノ甲安ノ

郡ナントヲ鑄買テタカニ屍ヲ又リトアリ五六八九寸ハ

角柱ノフトサシ云フ琵琶ノ甲ハ松平 本氏 土佐守藤原豊雍ノ

考ニ樂器ノ琵琶ノ甲ニハ必スダ椎ト云木ヲ用ユ其木ノ性強

クテ朽サル木也故ニ屎ニ用シタルハト或云スタ椎ハ木理ハ

ツ子ノ椎ノ如クニテ色ケヤキノ如ク赤シテケヤキヨリモク口ニアリ土藏

ノ柱ノ土臺ニシテ何年モ朽サル者也ト貞丈云スタ椎ハ必琵琶ノ甲

ヲ作ル木ナルニヨリテ昔ノ俗ニスタ椎ノ木ノ夏シ琵琶ノ甲ト云ヒ習

ハニタルナルニ又安郡ハ長門國阿武郡ナリ杣板ヲ歌ニヨメリ藻

塩草ニ見ヘタリ歌ニ長門ナル阿武ノ郡ノ杣板ハモヒコヒ人モスサ

メサリケリトヨメリ長門ヨリ出ル材木ヲ阿武ノ郡ト云ヒ習

シタルナルニ安字ノ用タルハ誤リナリ阿武ヲ用ベシ

一 猿治馬病 大和本草云馬経ムテヤニ母猴ヲカハハ馬ノ疫癘ヲ

除クト云ヘリ潛確類書曰猴皮辟馬疫本邦ニモ猴ノ馬病ヲサ

ル事ヲシヘリ

一 方丈 祖庭事苑ニ今禪林ノ正寝ヲ以テ方丈トス蓋別ニ毗耶離

城維摩ノ室ニ取ル一丈ノ室ヲ以テ能三方二千ノ師子之座ヲ容ル不
可思議之妙事有カ故也唐ノ王玄策西城ニ使スル時其居ニ過リ
テ手版ヲ以テ縦横ニ量之得テ笏因以テ為名

一 盜ヲ取ニミラ波トヨム_フ後漢書ニ後漢ノ孝靈帝中平元年
張角ト云昔黃天ト名ヲ誓テ黃十_ル中ヲ蒙ル者三十六万_{亦猶將}
方字 作万人ヲ相隨ヘテ謀殺ス皇甫嵩ト云人破之其餘堂等西阿

ノ白波谷ト云トコロニカクレ居テ徃來ノ旅客ノ賊室ヲ掠取ル時ノ
人は是ヲ白波賊ト云○伊勢物語ニ風フケハオキツシラナミ立田山
ヨハニヤ君ノヒトリユエラムトヨメリ○赤眉ノ賊ト云アリ細鑑ニ

西漢ノ末孺子嬰カ時樊崇等王莽將ニ討之スルヲ聞テ其衆
莽カ兵ト乱レシ_フヲ恐ル乃チ皆其眉ヲ朱ニシテ以テ相識別トス_{此レ}

_{スル}一也是ニヨリテ号メ赤眉ト云○黃巾ノ賊ト云ハ前ニ云白波賊也

一 華表柱 祖庭事苑曰古今注曰堯設誅謗之本即華表也横

木ヲ以テ交ヘ柱頭如華形如桔槔也大路交衢ニ悉設或謂表
木ハ王者ノ諫ヲ納ル_ルヲ表ス表識衢路泰乃除之後漢ニ至テ

重テ修ス_{愈愚隨筆}吾国神前ノトリ井ニ華表ノ字ヲ用ユハ形

似タレ_レト主意違ヘリ鳥居ノ字ヲ用ヘ_レト_{列仙傳ニ華}

一 眉間赤ノ_{ミケニシヤク}夏列異傳ヲ引テ愈愚隨筆卷五ニ見タリ俗説同_レト_{大平記}

一 五明扇ハ舜ノ作ル所也舜既ニ堯ノ禪ヲ受ケ_ユ廣ク視聽ヲ用キ

賢人ヲ求テ自輔ケ故ニ五明ノ扇ヲ作レリ恭漢ノ公卿大夫皆用
ル_ルヲ得タリ魏晉ニ至テハ乘輿ノ者ニ非ハ用_ルヲ得ヌ博物志

ニ見タリ○扇ト云ハウチハノ_ノナリ夕_夕扇ノ_ノニマラス

一 古代梓弓檀弓槻弓柘弓ヲ用シ是等ハ皆丸木弓也丸木弓ハ
 膠ヲ用ナルカ故ニ夏秋ノ湿深キ時節ニモ弓枉^ヤノ事ナク又雨
 露ニ逢テモ在^レノ事ナシ故ニ軍陣ニ用之也木弓ハ朝鮮ナトモ今
 ニ用ユ尚弓ト並ヘ用ユ蝦夷ニモ木弓ヲ用ユ今世ノ人木弓ハ引折
 ベキカトアヤフモ思ヘリ木弓ヲ射テ試ル折ル^ナトモ木理ノ用方アリ
 一 丸木弓ヲ削ニ木理ヲ板目ニトシハ引折ル^ナトモ取ベシ木ヲエラムニ
 木理ノ直ナルヲ用ヘシ木理ノ子ビレタルヲ用ベカラズ長サハ人々ノ手ノ
 寸ニテ七尺五寸ニスシ曲尺竹尺ヲ用ズ
 一 丸木弓ハ檀ヲ上トス^ニモ木トハ真弓ノ木ト云フ^ナ也^ニモコトノ弓
 ノ木ト云フ夏ナリ槻ハケヤキニ似タリ木色モ木理モケヤキニ似タリ梓
 ハアワサノ木也キサキトモ云シホノトモ云柘ハウミノ木也山^ノハトモ
 ノグハトモ云何レモ古代ノ弓ニ作ル材也又今世ノ弓ノヒゴニ用ル木ハ山
 ハセ也山生シタルハゼノ木ナリ古代ハヒト云天ノハヒ弓是ナリ丸
 木弓也

一 御監ノ称 和字辨ニ馬寮御監トハ左右アリ今ハ將軍家兼
 官トナレリ凡^レ儒者御監ヲ文字ノ通りニヨミタルハ王人ノ家ニ
 テ大ニワケハヒタリゴカントハヨマズゴケントヨムガ古実ナリト云
 ○負丈板將監ヲニヤウカントハヨマズ是ト同音ナリ○和字辨ハ
 篠崎金吾平維章 号東海 ト云儒者ノ著述也其書ヲ論每ハ
 ヲケレトモ此国ノ古語ニハウトキ後テニハノチカヒタル文ノカキ
 ヤウ見エタリ

一 鎌倉実録ノ事 偽書ヲ引タリ 和字辨ニ云鎌倉実録卷

未ニ金史別本列將傳ト云フ書ヲ引テ義經ノ金国へ渡ラレシ
事アリトト書タリ此作者中根文右エ門ト知音ナリト云ヘ金
史別本ノ事ヲ同ニヤリシニ其偽ナルトアラハレタリ
○貞丈云是ニ因テ思フニ近年ユリワカ実記小栗実記三楠
実録ナト云書板行ニマリ実事ハ少ハカリニテ偽作多シ
外題ニ実ノ字ヲ加ヘタルハ人ニ実ナリト思ハセシ為ナルヘケレト
モ実ノ字ヲ加ヘタルニテ押テ其虚アラハルナリ三代実録文
徳実録ナトハ古史ニテ真ノ実録ナリ信スヘシサレトモ実録
ト名付ラレシハ快ラガル欲実ハ虚ニ對スル詞也虚録モナキニ実
録ト号シタルハイカナルトヤ三代紀文徳紀三代史文徳史ナ
ト、号セラレハ可ナラン歟

一 中右記、中御門右大臣宗忠公ノ記ナリ

一 公御著座ノ肘束帯ニテハ常ノ如クニヒサ頭ヲ前ニシ足先ヲ
尻ニシキテ座スルトハナシ表袴ヲ著テハ天神ノ像ノ如クニヒサ
頭ヲ腹ノ下方ニヒラキ足先ヲ前ヘシテ安座スル也右壺井氏説

名
各目抄聞書ニアリ

一 塩囊扱ニ弦巻ト弦袋ト兩名ヲ記シ出セシ兩名一物也西名
ヲ以テ二物トスル者ナカレ

一 装束ノツケ物ノ事海人藻女云侍禰等ノ付物結花後ハ畧
之草物ノナキ草ハ畧セス草物着用ノ時ハ髪ヲカラフニ結フ
カケサレニ飯ヲ也侍禰水ヲ直岳等着用ノ時ハ髪ヲサケルニ
髪ニサハルニ飯ヲ付物ノ菊トナクハ今畧也云々 ○貞丈梅草卑

物上裏ナキ狩衣ヲ云フ歟又狩襖トハ狩衣ノイナリ○又按
付物ノ菊トチトアルヲ以テ考ルニ作り花其外作り物ヲ装
束ニ付ルハ即是ヲトケ付テ菊トチニ用ル也只カサリキニハア
ルキクトチハスヒメヲホコロハカサジガ為ナリ

一嘉定 庖丁書録曰 林道春 六月十六日嘉定有迫比世俗ニ

申傳フル室所家大樹ノ時六月納涼ノアソビニタニ楊弓ヲ

射テカケモノトシテケタモノ嘉定錢十六文ヲ出シ食物賣

テカチケモノヲモテナヌ也嘉定ハ宋寧宗ノ年号ニテ十七

年有其年毎イ名錢ニ元年ヨリ十六年迄ノシルニアルヲ拾六

錢マツメテ今日一人コトノモテナシモノ之代定ル也右ノ本

説タシカナラガレドモナラハシ来ルルカクノコトシ 室所家年中行夏ノ書トモ見ハス

一俗語ニキツトスルト云フハ此ノ字也唐詩選丹青引贈曹將軍

霸ニ榻上庭前此相向トアリ唐玄宗王花驄ト云フ名馬ヲ庭前

牽立テ其形ヲ畫日將軍画カセテ榻上ニ置テ見給フ榻上ノ画馬

庭前ノ生馬ト此ト頭ヲ上ケテニラミ合テ見ユルト云フナリ

一展卷筆記云 著者 シラニ弓ト云フハ檀ノ白木ニテ作りタルヲシ

ラニ弓ト云フ負丈云テユミノ木ト云ハ真弓木也弓ニ作ルベキ

正真ノ木ト云フ名ナリ今世上佐國ノ土民固主ヨリノ鯛レ状ヲ

川向ノ隣村ニ送ニ常ニハ川ヲ渡リ持行ク大雨洪水ニテワケラ

レ又敗ニハ木ノ枝ヲ切テ弓ヲ作りテ 矢ニ射テ結付テ川ヲ射越

シテヤル也其処ノ土民ノ云フニ外ノ木ヨリモテユミノ木ニテ作り

タル弓ハ弓ノハシキツヨクテヨシト云フ土佐人ノ談ナリ

思ス不レ誤也也韓非子ニ齊ニ有居士田仲者ト云リ又レ花礼記ノ玉藻ニ居士錦帶ト云フ語アリ是等ヲ始トスキ歟又梁書文苑傳世説ノ接逸篇ニ居士ノ稱アリ皆不仕テ隱ル者ヲ云リ処トイフモ同シ但北史ニ陸法和佛法ニ歸テ官大尉ニ至トキキ自居士ト稱スト是等佛法ニ云フ所ノ居士歟

一 紙花 延喜圖書寮式曰凡国忌齋會五位一人六位已下一人史生一人向寺率諸司史生四人ニ行事冬月用紙花東西寺二寺二十餘月採時花供之便令寺採○採時花ニ對シテ紙花ト云テ十ハ紙花ハ紙造リ花十ルハシ

一 頭巾 同式凡字牟科仁王經十九部ニ云 各給淨衣絶四文行彩茶禪科調布四文尺衣袴茶湯帷頭巾二條絲一兩ツ

一 水麻笥 同音早水麻笥ニ口二柄一○麻笥ハ桶也柄ヲケト割

一 八本麻笥ヨリ出

一 圍毬 同式ニ凡裝潢長切日粘紙七百張拵紙二人日百二十張度圍毬四百四十八張張別ニ毬長七寸二分廣七分注圍毬四百八十三張張別ニ毬長同上廣分廣毬五百八十八張世書書四百二十張裁端及著襦○圍毬ハ書藉ノケイビキノヲナリ

一 禪 同縫殿寮式曰六月神今食席服帛草衣二領別ニ丈七寸禪二腰丈中袴二腰丈禪二腰丈

一 黑葛笠前同章黑葛笠二合各長一尺五寸○按是ハ寛笠也廣一尺三寸

一 柳笠前同式六月晦日御贖服云柳笠六合丈二合○又同中四合

式正月齊會衆僧法服云々柳筥二合納履〇二合四合ナ

ト云フハフタモ身モノル筥也殊履ヲ納ルトアルニテ筥ナル更

ヲ知ルヘシ今テ用ルモノハ柳筥ノフタナリ〇又下ニ記ス参考

一望陀布 同式新掌會脚服云望陀布二條〇按上慈國望

陀郡アリ此所ヨリ貢スル布云ナルベシ和名板見

一二目纈帛一疋一頁纈カ長功日十四人中功日十七人短功日六人

見千同式是八目結ナルヘシ

一柳筥 同式年料雜物ノ章ニ柳筥四合盛脚服ノ料ニ合 雜給料ニ合

合ハ本筥ノ字ナリ柳筥フタモ身モノアリ今ハフタノミヲ用ユ

一後ヲ馬屋置事 西晋ノ趙固將軍甚榮重スル所ノ良馬死ス

趙固是ヲ借テ賓客ニ接テズ郭璞ト云仙術ヲ得名者河東ノ乱テ

避テ此ニ至ル門ヲ守ル者ニカノト諾テ内ニ通セズ郭璞カ曰吾能

ク馬ヲ活ヌヘト守者驚テ入テ白ス趙固趣出テ云君ヨク吾馬

ヲ活サンヤ郭璞カ曰健丈ニ三十人ヲ得テ皆長竿ヲ持テ東ニ行ト

三十里ニシテ丘林廟社アラハ使チ竿ヲ以テ杓ハ當ニ一物ヲ得ヘシ急

ニ持テ歸ラハ馬活セント云フ趙固其言ノ如ク杓ニ一物ノ猴ナリ似

タルヲ得テ持テ歸ル此物馬ノ死ヌヲ見テ使チ其鼻ヲ嚙吸ス

頃アリテ馬超テ奮迅嘶鳴スルコト常ノ如シ又先ノ物見エテ趙固

大ニ稱賞シテ厚ク資給テ加ヘタリト云右搜神記ノ趣ナリ

一布施 僧ニ施ス物ヲ布施ト云フ事 須達長者祇陀園ニ

黃金ヲ布キナラベテ其金ヲ以テ其園ヲ買ヒ取テ建一寺ヲ叙迦

如來ニ奉リシト云フ故事アリ

一日蝕月蝕之事 天文七西川 森有書 教童曆記曰日蝕ハ必朔日ニアリ月

蝕ハ必十五日又ハ十六日或十四日ニアル時モアリ日蝕ハ日輪ノ正下

月輪メグリ違スル時月ノ躰上ナル日ノ躰ヲ蔽ヒ障リテ日光

ヲ隔テ暫時日光明ヲ失フナリ月蝕ハ日月正面ニ對シテ正

ムカフノ時ハ其中間ノ大地ノ蔭時月ノ躰ニ障リテ日光ヲ遮ル

故ニ月躰暗黒トナリテ蝕セリ何レモ定數アリテ算考スト云々

○貞文云日輪ノ正下ニ月輪ノクリ逢トハ日ノ下ニ月ケ重ナル

七月ハ光ナキ物ニテ日ノ光ヲウケテ光ル者也其光ナキ月カ日ノ

下ニメグリ合フコト日ノ光ヲ隔ツル也○月蝕ハ日月正面ニ對シテ

向フト八月ハ天ニアリ日ハ地ノ下ニメグリテ日ト月ト正面ニ合

ヒ合フニ中ニ大地カアリテ日ノ光ヲへタツル也月ハ日ノ光ヲウ

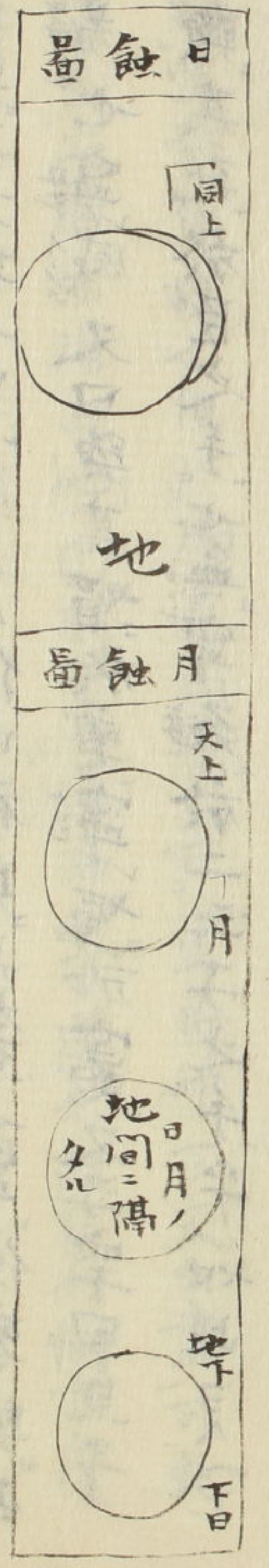
ケテ光ル物ナリ大地ニへタテラレテ月カ日ノ光ヲウケル莫ナラ

又上へ蝕スルナリ○日月ノ形ハ圓キモノ如シヒラタ局キ物ニアラズ只

火ノ精ナルコト光アリ月ハ水精ナルコト光ナシ日ノ光ヲウケ

テ光ル日月十分ニ對スルハ十分ニ蝕ス少シカタヨリテ對スルハ少

シ蝕ス推シテ知ルヘシ 此番貞文作



一 寧ノ字ノ國訓古ヨリ 儒書ニムシ口トヨミ来レリ 貞文按

ムシ口トヨムヲ儒書ニノミ用テ他ニ通セザル詞也寧ノ字說文

曰願詞也トアリ然ラハ子カハクハトヨミタケレ共子カハクハトヨミテ

ハ真ノ願ノ字ニテ 願ノ詞ト云フハ合ズ願ノ詞ニヨムハキナラバカ
シト云ヘシカシト云フハ願ノ詞也此ヨミヤウ先儒イテ夕發セ
ナル所也大學曰與其有聚斂之臣寧有盜臣一論語述而
曰與其不孫也寧固又八佾曰礼與其奢也寧儉與其
易也寧戚又曰與其媚於奧寧媚於竈又子罕曰且予
與其死於臣之手也無寧死於二三子之手乎如此ヨムハ
寧也トアリ 古歌ニハキクモもあはもえ人かつたじけ
やんらんことをもこへし又くもれし海がやうふふし
きハ月よあけゆり人のおのけ又のむ事ハくもれち
うきあはせ酒何いたくへ人のくがし 右何れハ死
の初めけ外古歌よりしとよるを歌の初め又無乃ノ二
字リモムシロトヨミ来レリ是モムシロトヨムハ惡シ乃千何カスル
ナシトヨムヘシ

一 御書令ノ公式詔書或曰明神御宇日本天皇詔首 義解曰詔以大事宜

兼蒲固使云々中 略年月御書〇同令右御書日者留中務首為

之辞也 案 此下之 義解曰詔御宣日者依勅旨式取署留為案為

顯宣奉行故也但以御書為驗不可更而仰下文云書可詔

留為案者亦准此也〇別字一通即署送太政官大納言覆

奏書可詔留為案寫一通詩詔施行 下略 〇御書ノ事禁秘

抄ニモ見ヘタリ

一 印寸法 公式令曰天子神璽 謂踐祚之日壽 内印方三寸五位

重宝而不同 以上位記及下諸国公文則所外印方二寸半六位以下位記及

太政官文案則印諸司印 謂省臺寮司等 方二十二分上官公文

及案移牒則印諸司印方二寸上京公文及案謂按則印ス

○縫目印スル一 同令曰凡公文皆印事狀物數及年月日

並署縫處鈴傳符封數○縫處ハ紙ノワキ目ナリ

一 職事官散官武官文官京官外官 公式令曰内外諸司有

執掌者為職事官無執掌者為散官五衛府及諸寮ノ仗

者為武大宰府三用因及内舍人不在武限自餘並為文

○又曰凡在京諸司為京官自餘皆為外官

一 朝政日喚姓名法ノ事公式令曰凡授任任官之日喚辭 義辭曰

所而授任之辭其在 三位以上光名後 姓 謂假令喚云云 四位以下

官者亦準此例也 三位以上光名後 姓 謂直稱名 若右大臣

謂三位 先姓後名以外三位以上直稱姓 謂直稱名 若右大臣

以上稱官名四位先名後姓五位先姓後名 謂喚云云 六位

以下去姓稱名 謂直言妻下名不稱名 唯於太政官三位以上

稱大夫四位稱姓五位先名後姓其於寮以上 謂辨官 四位稱

大夫五位稱姓六位以下稱姓名司及中國以下五位稱大夫 謂

以下通 用此稱

一 赤烏帽子ノ事 其昔義教公御前ニ源義 松浦肥前守也 出仕

時好テ赤帽子ヲ著テ 朝ス故ニ義教公自ラ其貌ヲ畫シテ

賜之源義義稱戴之後南禪寺ニ寄進スト云多田五代記

二見工 多田兵部源義俊著 又小笠原持長ノ射師拾遺集云流

鏑馬射裝束ハ小キヲサシ多クキ裝束ニ作花十ナリ射止

ア外世裝束ハ裝束セテ前ニ馬場ヲ通スアケ馬ノ一也烏帽子ヲ朱

又リテモ着檜笠十トヲモ用也。俗ノ謔ニ亭主ノスキノ赤鳥
帽子ト云フモ中古赤エホシヲ好ミシ者アリシヲ嘲ル詞ナルヘ
上古ニハナキ一也

一 宛夾ノ事 投桑畧記寛平四年壬子九月ノ文曰所取雜
物大將軍縫物、甲冑貫草ノ袴銀作、太刀纏弓草ノ胡錄
宛夾保呂一具已上附脚カト云々是ハ新羅ノ賊船四十五艘
来レルヲ攻亡シテ彼船ニ有シ物ヲ京都へ進上シ名丁シ云フニ
右ノ品々ノ物、中宛夾何物ト云フ丁知レズ 貞丈按スルニ續字
彙補夾ノ字ノ注曰又訖洽切備入声周礼射鳥氏則以并
夾取之註曰并夾 鍼箭具也ト見ヘタリ 投桑畧記周礼ノ
注ノ文ニ據テ并夾ト記シ名ナルヘシ并ノ字ニ并作ルニ仍テ後
人并ヲ誤リ寫シテ 宛夾ト書タルナルヘシ宛夾本ハ并夾ナルヘシ
疑ヘカラス并夾ハ的ノ高ク中リタルヲ 扱ハハサミ也

一 小キ仇ヲヒメウリト云小キ百合花ヲヒメエリト云スヘテ小キ物
ヲ名ニヒメウリテ名ツケル丁異国ニモ同シ續字彙補ニ女字ノ補
音義ニ女乘ハ小乘也又古今注ニ女墻城上小墻也トアリ此女ノ
字吾國ノ詞ニヒメト云フニ同意ナリ

一 近世儒学ヲスル徒姓名ヲ署スルニ唐人ノ一子ヲシテ復姓ヲ省テ
單姓トスル者多シ 復姓トハ二字或ニ三字ノ姓ヲ云
單姓トハ一字ノ姓ヲ云ナリ 藤原ヲ省テ藤某ト
シ物部ヲ省テ物某トシ清原ヲ省テ清某トスル類ナリ甚非
也古吾國ニテモ菅原ヲ省テ菅亟相ト云大江ヲ省テ江納言
ト云類アレトモ是ハ私稱ニテ公ノ丁ニアラス 或説ニ菅原清原

藤原ノ原字大江ノ大字物部ノ部ノ字小野ノ小ノ字十ハ虚字
ナル工ハ虚字ヲ除テ実字ヲ執テ单姓ニ書クハシト云是又誤也
姓ニ虚字実字ヲハ論スハカラハル也 虚字実字ト云フハ題歌ノ
ヨミヤウニアルナリ

单姓ニ書ハシテハカハスト云フモナキナリ单姓ニ書サレ
ハ唐人ノヤウニ聞ヘスト云フ人アリ何工ハ唐人ノヤウニキカセキナリ
歎心得カクニ其上唐人ニモ複姓アリ百里端木石作新垣高堂東
方赤草諸葛古野司馬十ト云フ姓アリ唐人ナレハトテ单
姓ニ限タルナララス又近世ニ藤原ヲ省テ藤某ト書テモ
イマタ唐人テシクナシト思フニヤ藤ノ字ノ州冠^{カク}ヲ除キ去テ藤
某ト書ク人アリ是ハ又一段越タル唐人ノキ也笑フハ日本橋ニ住
ケル儒者カ宅ヲ品川へ移シテ唐へ一里近ヨリシトテ悦ビケルト

云フ物語アリサモアルハシサツ唐人ノ衣服ヲ著タク思ヒテサカイ
キワリテ麻上下ヲ著ルヲハ何ヨリモ苦シキ莫ニ思フナラニ情
ヘシ儒者ハトカク日本ノ風俗ヲ改テ唐風ニシタカル丁通癖也
然レトモ儒者ニ唐音ヲ知ラサル者多シ唐音テヨク能ク習ヒ熟
スヘキナレ唐音ニ達セサレハ唐ノ書ヲ讀テモ意義ニ達セキ
ル事アリ又詩ヲ作ルニモ唐音ヲ知ラズニテ作りタル詩ハウタ
ハレ又詩が出来ルナリ用ニモタメ又唐人ノ子ヲセヨリハ唐人
ノ物ニヒノ子ヲ好テ唐音ヲ習ハハ大ニ学文ノ助ナルハシ
一 平座 片^{カタ}節^{セツ}會^ヘトハ畧儀ノ節會ナリ平座トモ云ナリ江家
次第等ニ見ヘタリ

一年山打聞云 為章作 安東字平ナリ丹波國桑田郡千幸山下尾口
村ニ産セシ人ナリト云 政三年山ト号水戸黄門光國

御名ニテ彰考館ノ修撰ノ事ヲ
類ミタヒヒシ人ナリ

人々ハ余リテ 臺盤所ニテハカナク 展以木下ハカリヲヒキツ

ホ子テヒヒモナク 井夕リ〇梅 馬章 梅ナリ ツボ子ト云フ詞ノモトハ是ニ

テ心得ヘシ紫日記ニモ展風ヒキツホ子ト有シヤウニオボエ花ノ

ツボ子又カラカサナトシヒラキツボ子ト云フ詞ト同事ナリハニ

一 權ノ北ノ方 世継物語ニ東三條兼家公ニ本室ナクシテ家ノ

女房太浦ト云フワカヒテ 時メカシタマヒケルヲ 權ノ北ノ方

ニテメテタシト書タリ 女ドナノサガナキ詞トキコユレトイヒ

ヘノハ雅ニテ侍シ 同上

一 自棄ノ戒 マツルカシヤ人々 今ハ何モシハカシヤ

思ハシムルハ 續古今集子物々 紫式部也ヒヒ

一 自棄自棄ノ戒トナリヌベシ 同上

一 市人稱官名 本朝ニテモ末ノ世ニテ治工筆工ノタクニテモ官

名ヲ稱スルニナリヌモロコシモ同事ナリ 陸奥菰園記曰史人稱

外郎者古有中郎外郎皆臺省官故僭擬以尊之今人稱郎

中餽土稱待詔磨工稱博士師巫稱大保茶酒稱院使皆然

州率石分不明之舊習也 国初有禁

一 ヒメハヒメ 資益王日記 此記合テ愚梅下ニ 二 明忘 十年正月一日云

諸社之遙祿之後三献有之次有經次脚コワ次ニ比目始海人

藻 中席門宣方師子 惠余院僧正宣字作 曰公家御膳飯者強飯也 執柄家亦如此 唯

飯全令畧儀也 但人々依好惡用之 強飯時飯湯也 而近代姫

飯時ヲモユコトヨト召不叶理者也 〇梅和名集 螭 和名此名 或説此米

非取之 トアリテ 其次ニ別ニ粥ヲ出シテ和名之留加由薄糜也ト
義也

アレハ糯糰ハヒタスラノ粥ニアラス唐ニヒナハシメトアルハ年始ニ糯

糰ハシムル事ナル也 貞丈按 糰字ニミツヒメト云フ
アリ 衣字ハヒメノリノコトアリ

一 眉又キ遠クノ 和名ニカ子其年
女粧ノ字ナリ 紫式部日記寛弘五年十二月ニ

云ツコモリノ夜ツイハイトトクハテタレハクロメワケナトハカ子

キツクロヒトモストテウチトケ井タレニ云ヒトリカハハヤ 作者未
詳彰考

館ノ御本合 冊ニテ四冊アリ ノ中ニ云カシラアラハセ髪モカキタレナトシテ見レハ尼

ノホトフサノトカレタリ眉又キカ子ツケナト女モサセタレハニ

建内記 時房公
日記 永享三年十二月ニ云予カ女九歳 有祝著中齒

久呂美三筆 予付初之眉毛又ク事母是ヨスク次ニ三献云ク

梅スレトリカハハヤハ源氏挾交ナトヨリ後ニ作レル州子ト見ユ宜

輝殿 實ハ
男也 權中納言 實ハ
女也 兄妹ヲトリカヘテ作レリ 貞丈按 遠ノ和名抄ニ
アレハ源氏物語ニ昔ノコト

一 小兒ノ額ニ大ノ字ヲ書ク 女府記 為房也
日記 康和五年八月廿七日

云東宮遷御高松茅成四刻御出宗通ハ御額奉書大字

先日女房奉仕為房卿ノ子息顯隆卿日記ニハ成刻行啓依

可奉書何也都古人事以予為ハ使被申説〇為章按云ニ

犬字ヲカクイシ阿也都古人ヲカクトイヒケシカシ

一 十二單 此名目フルキ物ニ見タレハ源平盛衰記卷四十三三葉

ノ裏ニ女院ハ御燒古御硯箱トヲ御袂ニ宿ニ入レ御才ヲ

重クシテツキテ海ニ入ラセ給 此同
畧之 弥生ノ末ノ夏ナレハ藤重

ノ十二單ノ御衣ヲ召レ云ク

一月代 玉海 兼家公
日記 安元二年七月八日建春門院崩御ノ記曰自

件篇中時忠御出首 其書實不正月代大 示左大臣以下云 下畧 為章

梅スル時忠ハ女院ノ兄ナレハ御篇中ハ出入ヲユルサレタル

ハ三月代ノ丁吉キ物ニハ此記ニハシメテ見タリ撰集抄ハ西行法

師ノ作ノヨシ 但後ノ添入ト コレニ七月代ト云フ丁アリ

〇貞文抄取石抄ニ月代ノアト、云フ丁アリタマク逆上強キ人ノ

月代ヲソリタルニ天下万人物風俗ニアラス

一ヨミクセ後ノ字和長ハ日記曰凡儒中故実者天子之追并後字

用音讀大臣称号之時後字用訓讀是通法之故実也後深草院

一号者用訓讀々其様御不孝之讀不聞好之義也後深草院

又大臣称号後京極殿之一号人皆後字用音讀是無殊事只

以言好之義也故自由之讀也何ノ後ノ京極殿ト申事有其一

頌哉

一ウハフシ 又云 道細母此時西山ノ 内侍ノカムノモトヨリ訪玉ハ御

カハシニ心ホソクカキクテウハフシニニ山ヨリトカイ父名ヲイカ、

オホシケン 上下 畧 今按日本紀ニモ題ト点シタリ今ノ世ニウハカキ

ト云フ但ノセ物語ニウハカキニムサシアフモトカキテアレハ是

モフルキ詞ナリ

一物ノ名ノ歌 仲文集ニ紀ノ国ノ郡トモヲヨメルイト 伊都 十カ 那

ナシカ 名草 アリタ 百田 アセ 海部ヒタカ 日高 弘口 牟漏 イトナカ

キ夜ハナクサテスアアリアリリユスヒタカムロニスフハヤ世一

字ノ中ニ七郡十七字ヲカクシタルハヤスカラ又事也

一龜居筒居丈六居 親長ハ記明之心六年三月廿六日宜流

御返書ニ龜居同居文六居龜居膝ヲ突テ居候同居膝
ヲ突候ハテウクハ居様候歎ト覺候○今按文六居座像
ノ佛ニ譬ケル名目ナレバシ

一 中古冠 三長記長兼卿 日記 美元二年十二月廿九日東宮德御

元服ノ記ニ云々次加冠理髮兩人起座退下各被參干北南
被改席元服之所又内府左大將自本合候此所被埋改席髻又御

冠令廣之御冠師候恭礼門之内是先例也取山針絲等放延
御冠閉付之少進棲基持參了○今按今ノ世ノ冠ハカヤウニ即

座ニ放ケ延ヘケモナシ靴ノ沓モ今ハ紐ヲ細キ銀ニテ引テハシ針ニテ
打付タリスヘテ衣冠ノ製古様ニテハ侍ラシ

一 傳國璽 三種神器ヲ傳國ノ璽ト云フ人マリ是臆説也小

右記山野宮 美法貞公 長和五年正月廿二日云御讀位式從大納言許被

見送傳國璽不知何物仍被尋其事天長十年記見大刀御
仍件記昨日送之即被載或文了又云大臣以下列左伏前

相侍宝劔神璽及傳國璽ト見タリ大カト御ハ二物ナリ

一 安陪仲磨ノ詩 あをとらふかみくさくさけりハノ歌ハ古

今集ニ載タレハ人皆知りし詩二首文苑英華二百九十

六ニ見ヘタリ 御命使本國 朝唐ニテノ名也成 晁衡トモ書ナリ 御命將辭

國 非才柔侍臣 天中戀明王 海外憶慈親 伏奏達

金闕 蹏驂去玉津 蓬萊鄉路遠 若木故園隣 西望

憶恩日 帰東感義辰 平生一宝劔 留贈結交人

以上羊山打聞上卷

一 揚名女 薩戒記 定親仁 應永世三年三月廿七日 徐目處

今度有府路時被申之文揚名女申文也件文云 被任常陸女

正六位上藤原朝臣國貞

望諸國揚名女

應永世三年三月廿七日

廿九日記云揚名女事自院以葉室中納言被尋下云揚名

女先例任國並諸文等可注進者此事遂惑仁任國者山城

上野上總常陸近江等之由見抄物此事大内記為清朝臣

後日終曰上皇就揚名女被尋仰女解言良賢入道常宗

云注進五箇國其時被散仰不審云此事若以如源氏

物語之說可定一國之由思召處今度申文望諸國揚名女

云依之仰不審出未候云或占人物語云田明寺 関白

見物賀茂之祭之時山城女渡之由人稱之曰明寺殿被

仰云揚名女波被仰了揚名女秘事也而無左右山城

使渡之時被仰出忽覺悟為今隱揚名女事後每度

被仰云此時以來人皆揚名女知山城女事云云云

章按スルニ賀茂祭揚名女山城女之限ルニ源氏物語ノ

ハ何レノ國ト定メカケシ右ノ諸國ノ間ナルニ作リ物語ナルハ

只アルニ留字ヲイハン焉テニ書ルナルヘシ

一 ミツカヒトツ 葵ノ巻ニソノヨサリ井ノコノモクヒ云々河海抄

ニ井ノコノ鏡ハ色トナル三日ノ夜ノ鏡ハ一色トハ數クニアラテ

ト云ナリ 契沖師カ云所セキサセニハアラテト云ニテ知レ

數ハ夕數ノ多キ也色クシ云ニハアラズ井ノコ餘多カリシ
其三分カハカリセヨトノ夕ニハルルベシ紫ノ上ノ事ハ嫁娶ノ
本式ニモアラテ又スヒトリ夕ニハル事ナレハ夕ニ祝ノシルハ
カリニテ 禮使ナラムカタメナリ 三ツガヒトツヲ今ノ世ニハ三
ツノ物ヒトツトイヘリ常ノ詞ナレトモ本文ハアリ 史記云晉
悼夫人食與人之城把者絳縣人或小人也不知紀年臣
生之歲正月甲子朔四十四甲子矣其季於今三カ之一也
更走同諸朝師曠曰魯曾叔仲惠伯會却成子兼匡之
歲也七十三年矣 右同書見

一 トノ井モノ 赤染海門家集ニカタ、ガハニ来タル人トノ井
モノヲ出シタルハツトメテイヒタル うらうら此細の糸乃

女帝花くほりく少くや人ハとらぬ 返一 篇かせハ本
とくやめ女帝花いそ後きり着とをころん 中治松達
ニ平貞丈カ本院持從カ馬ノ忍ヒタル所ニ云クツホ子ニ行ハ
人出キテトニナレハ業内申サントテハヒノニカニイレテイフ見レ
ハ物ノウシロニ火ホノカニトモシテトノ井モノトオホシキ夜フセ
カニカケテ夕キ物シメタルニホヒナヘテエナラス云々夕ニ夜著
ノ事ナリ 右同書見

一 菊花 一方葉集ニハ一首モ見ヘズヨリ 後桓武天皇ノ御製ヲ
類聚國史七十五卷ニ載テテ云 延暦十六年十月癸亥曲宴
酒酣 皇帝歌曰 コノコホノシクヒノアメニキクノハ 已乃已名乃志貝礼乃阿采尔菊乃波
ナケリソシコハキ 宗知利苗日之奴倍岐阿多羅菴乃 カサ 香白平 賜五位已上衣被

今按今モ菊ノ花ハ九月中比モシクハ末ワカメヨリ十月マテ
盛ナリ一方葉集ハ決路廢帝天平室字年中マテノ歌ヲ載
ラレタルニ首モ菊ノ歌見サレハ稱徳光仁ノ席代或ハ桓武ノ比ナ
トモロシヨリ菊ノ渡リタルニヤ右同書ニ見タリ○貞丈按右桓武天皇ノ
御歌ニ菊花ヲキクノハナトヨミタマヘリキクト云フハ菊ノ字ノ音
也國訓ニハアラス字音ニテヨフハ外國ヨリ渡リシ故ナルハシ
然ルニ菊ノ字ニカハラヨモキ又アキシベノハナナド、訓ヲ付ケル
ハ後人ノシワガナリ

一カナツカヒ契仲師カニ俊成々ノ歌ニタノセズニカニカニ
ノ色ヲミヨア井ツメテコソフカクナルナレ一方葉集以テ為遠ト
於コレヲサハカヨハセルナシイナシ以テ為ト比ナト更ニカヨハサズ

後世ハ古ニカハレリ今按達ト藍トカヨハシテヨレ花ヲソシリ夕
リゲニモナルナリカヤウニ中比ノ先達不吟味ナリシユニ假名
ワカヒミタレテワケモナクナレリ四声ヲロキテハ又人ノ詩ヲ作ル
ガコトシ此外中古ノ歌ニカヤウノ不吟味又ニ夕見ハタリ同書見
一將棊 困若雙六ハフルクヨリ物ニモ見ユタレド將棊ハイツ比ヨリ
トイフコトヲ知ラズ明月記建仁四年十二月十日宇治御業幸記其
傍置困棊乃六將棊等盤トアリ後日ニ家兄為実ノ云台
記大將棊トイフ物見タリ其文ニ云康治元年九月十二日参
新院於席前與師仲朝臣指大將棊余負同書見
一 天皇謚号 親長々日記ニ後花園院号定時中院大納言
通秀申詞ヲノセラレタリ文長十ハ前後ヲ答ス○ハ謚法事

起於用道遠及日域者歟神武已來至文武四十二代者是
淡海公所制之事已幽舍也其後儀式依乎日之德行蓋号或
以後院御所證成此字追号有山陵之由緒有庵号之遺詔彼
是非一者乎の勸修寺前中納言教秀申詞コレ前後ヲ畧
ス如長人記者元明天皇敕命以其国其郡可為謚号之
由分明也以上羊山打

一 じメ始

此本文上見
タリ見合ヘシ

羊山打聞ニ資益王ノ日記ニ次ニ席コワ次

ニ此目始ト云フヲ引テ海人漢漢和名扱ナトヲ以テじメハじメ
飯ヲ食スル始トス是ニテ疑ナキカ如シ然レトモ貞文竊ニ疑
アリカノ次莫益王日記モ上古ノ書ニアラス明應十年ノ記文
ナリ明志ノ比モじメ始詳ナラスニテじメ飯ヲ食スル始ト云フ

説アリシ故じメ飯ノ夏トシテ記サレニハアラサル歟コハ飯ハ

本式ニシテじメ飯ハ畧物也然ハ曆ニコハ始ト云フモアルヘ
キニコハ始ハ見ヘスシテじメ始ノ記ニ來レル不審也只飯ハ
本式ナル故コハ始ヲコソ記スヘケレ畧義ノじメ飯ノ始ヲ曆ニ
記スハ心得テレヌナリサレバじメ飯食スル始ノトハ思ハ
レス右貞文考

じメ始ノク俗ニ飛馬始ト書テ馬乘リ始也ト云フ説アリ用
ベカラス曆ニ馬ノリソメトアリテ別ニじメ始トアリ馬ノリソ
メトじメハ別ノ事也又俗ニ夫婦交接ノ始ナリト云フ
貞文按ニ此説實ナラン歟年ノ始ニサ二ノノ事始アリ夫婦
交接子孫繁昌大本ニシテ万歳ノ中是ヨリ壹キナリ

家ヲ継クノ基也廿六年ノ始ニ必此始アルヘキナリ俗人好
色媼乱ノ心ヲ以テ見ルニハオカシク父シタリノ様ニ思ハ氏夫婦
ノ六リハ好色媼乱ノ義ニハアラズ夫婦ハ五倫ノ一ツニテ既ニ婚礼
ト云フモ礼儀ノ一ツ也幸ノ始ニ媼始トテ祝儀ヲ営ムト婚礼ノ
祝ニ准スヘシ人ニ隱スヘキナリモアラズ耻ヘキナリモアラズ然ルモ
好色淫乱ノ如ク思フ人始ニ媼始ハ夫婦交接ノ一ツニテハアルニ
ト思フニヨリ別ノ一ツナリヘシトスルニハ詳ナラヌナリニナルヘシ
カノ次頁益王日記ノ比目始ハ婚礼ニ准ミタル祝ナルヘシ
一 用人ノ事 東鑑卷三 ナリ 是子息而從者數尤可為御要
人之故也又世四之卷ニアリ今武家ニ用人ト云フ役アルハ
要人ナルヘキ歟家老ニ引續テ所要ノ人ト云フナリナルヘシ凡
主君ニ仕ル人貴賤ノ品コソアレ主用ナキ者ハナシサレハ用人ト

ト云フ役ノミニ限ルヘカラス要人ト書ケル其義叶フヘシ太平記卷
三十三新田左兵衛佐義真自害ノ篇ニ兵衛佐殿モ竹沢モ
他ニコトナル思ヒラナサレ傍輩 共モ比自コレニ過タル御要人ア
ルヘカラスト悦ハヌモノハナカリケリト見タリ是肝要ノ人ト云
フ心ニテ御要人ト云タルナリ 異本太平記ニハ
御用人トアリ
一 節下大臣之事 江家次第十四大嘗會御 禮条ニアリ曰
節下大臣就標諸司列立又云節下大臣令擊鎮陣鉦以
之 畧 一条禪閣ノ三子重事扱云節下ノ大臣ト云フハ節ト云ハ
旗ノ名也世俗ニハ大カヒラト名ツク其旗ノ下ニ供奉スルニヨリ
テ節下ノ大臣ト云フナリ○節旗騎馬者持之以緋緹四人
張之件旗上三候 コト 如山字ト管見記見ヘタリ○節下大臣

ノ名儀ハ節下ニ供奉スルヨリ 称スルナリ 節會ノ内弁ト云フ
 カコトシ件ノ供奉ノ弁備ノ上卿ト知ルヘシニ 次弟ニ節下
 大臣ノ各ニ上卿トアリ 猶考ヘシニ 右大塚市節右工頭 橋嘉
 樹説ニ 貞丈云ニ 同重事板ノ中卿 櫻行幸ノ篇ニ 見ナリ
 一 後樂ノ源平盛衰記卷ニ 澄憲雨ヲ祈ル篇ニ云 後樂ト申
 ハオカシキ事ヲ云フケテ人ヲワラハカシ侍ルヅカシニ 三代実録其外
 古卷ニ散樂トアリサニカク轉ニテサルカト云
 一 藏法師 盛衰記卷四 鹿谷酒宴ノ篇ニ云 師光ハ左工頭尉
 成景ハ右工頭尉トシ申ケル 信西平治ノ乱ニ討シ 時二人共ニ
 出家シテ 左工頭入道ハ 西光 右工頭入道ハ 西景トシ申ケル
 二人ナカラ御藏ノ預リニテ 猶召仕ハレケリ
 一 白河院ノ詔 同書卷四 加賀國温河燒失ノ篇ニ云 白河院ハ
 賀茂川ノ氷双六ノサイ山法師是ソ朕カ心ニシタカハヌモノト常ニ
 仰ノ有ケルトゾ申傳ヘタル

藏預ル者古法師也京都將軍代ニ
 モ如此也今世ハ俗人ナレモ藏法師ト云
 ハ此ニ也

一 貞永或目ノ起請文ニ 日本國中六十餘州大小神祇殊ニ伊
 豆箱根而所權現三鳥大明神ハ 幡大菩薩天満大自在天
 神トアリ 是ハ相模國ニテ書シ 故相模ノ神名又近隣ノ伊豆
 ノ神谷ヲ折言ヒ掛シ也 八幡モ鶴カ因也 天神モ住栖ノ天神也 他國
 ノ人起請文ニ 伊豆箱根ヲ書クニ 及フニキ 了也 源平盛衰記
 卷世九重衛酒宴ノ篇ニ 佐殿ヨリト 顔色アヒサテニ成テコシテ
 テ仰ラルニシケレ共 汝ヲヤルハ中將ヲナリ 十ダサメニ夕メ也 中將
 イカテカ 汝ニ情ヲカケサラシイカテカアヒキニサテハ折言言仕
 レト仰ス 女ナミダラナカシツ 若シ中將ニカコレナカラ 御前ニテイウ

ハリゴト申侍ヲバ在栢足栢伊豆箱根ヨリ始奉リ日ノ下ニ住
シタマフモロクノ神ノニタマレヲカウフラヒトソ申ケル云々此
壽ノ前カ折言言モ相模国鎌倉ノ人ナリニ其折言在栢足栢
伊豆相根ノ言タルナリ

一 下帯 同書卷十一 經俊布引ノ滝ニ入糸經俊ハ紺ノ下帯カキ
備前作ノ二尺八寸ノ太サ隨分秘藏ニタリケルヲワキニハサシ
テ髪ヲ乱シテツト入云々下帯ハ今ノフニトシテ也又古ハ手
細トモ云フ義貞記ニアリ○又装束ノ下小袖トニスル帯ヲ下
帯ト云フ莫モアリ

一 和輿 貞永式目ニ和子ト云フナリ 源平盛衰記卷三十七
則細盛俊ヲ打冬ニ維廣ヲ待付テ盛俊ヲ討タハ二人トテ討
タリト人ニイハシモ 本意ナシ和子シテ命ハイキタリトモ
カルニキ盛俊セヨ 和子相共ニ和談スルヲ云フナリ

一 紀之女 盛衰記卷十九 佐々木馬ヲ取り下向ノ冬ニ如法ア
カツキノ夏ナレハ旅人モイテ夕見ハサリケルニ草鞆ヲキタル馬
追ヲ男一人見へ来ル高細ワドノハイウツク人ノイヅクハワタルソ
ト問ヘハコレハクリタラ者ニテ候カカマフ郡コワキノ八日市ノ行モノ
也ト答フ名ヲハタレトイフツト問ヘハ男アヤシクニ思ヒテサウナ
クアカサズトカタコシテテ問ケレハ ^紀之女トブ名ノリタル云々
古ニ紀之女ト名ノリシ下賤ノ者アリ女ハ官名ナリ 官名ヲ
犯スルモ久シキナリ

一 短尺 ^{内裏式ニアリ} 太平記卷世高倉殿京都退去ノ冬ニ將軍以
^{上古ヨリアリ}

モサハキタテハス履殿ノ短冊トリ出シ心シツカニ詠吟シ打ウツフイ
テソオハシケル云々將軍ハ尊氏ナリ或説ニ短尺ハ東山殿ヨリ始ル
トハ非ナリ古代ヨリアリ 雜々拾遺云宇治左大臣頼長ハ
日記ニ鳥羽法皇ヨリ宮女ノ方ハ短冊ヲカキ下サル由ヲ記シ玉リ
一 三邊ト云事 迹言使蒙叔云三邊ト云フテ説々多々胡詠集
ニ先三邊方吹其花云々其叔ニ三邊ハ酒名也シカ名付ルテハ
酒盃ニ入テ々々ルテ三々ビビテ定テリタルトキノム也然ラハ時ハ
茶トナラヌ仍酒ヲ三邊ト云フ邊ハシツルノ義也トイヘリ又
玄惠法印ノ説ニ晴ノ座ニテ酒ヲノムニハ必三邊ト云テオツキテ
三ツアリ一ニハ人ノ手ヨリ酒盃ウケルニサウナク請トラサル其同
邊三ツニ請取テ酒ヲ受テモ頓テノズ人目ヲカケルトキノム

同邊ニ三ツニ飲テ後人ノ飲ニモ左右ナク請テサル 同邊ニ
故ニ酒ヲ三邊ト云フトイヘリ又一説ニハ人ニ酒ヲフルテフニ
定テ三邊ノ義式アリ 先述ヲシキ次ニ 語ヲテシヘ次ニ音ヲス
ム是ヲ三邊ト云フトモ云リ〇 貞丈 按古今著聞集ニ競
馬ノ事ヲ書タル条ニ三邊ノ後ト云フ変アリ是ノ文章ノツ
キ酒ヲノミタル後ト云フトハ聞エズ比三邊ハ三度地道ヲ
兼ルト云フトノヤウニ聞エ東鑑ニハ三庭トアリ是モ競馬ノ条
ニ見タリ庭ハ邊ノ誤歟邊ハ庭ノ誤歟詳ナラス三庭ト云フト
キハ馬場ヲ三庭ト云リタルト聞エ詳ナラス酒ノ異名ノ三
邊トハ別ノコトナリ
一 俗ニサモシイト云フ 詞アリ 補ノ字ナルヘト禰ヲサニスルトヨ

ムナリ福ノ字玉篇ニ早善ノ切急也校也衣小也トアリ字
彙ニ福小匿陋又福急詩魏風雜是福カズレ心トアリ 是等
字注ヲ合セ考ルニ福ト云フハ千イサクセハクセハシキト云フ
意ノ字也然レハサモシイト云フハ心セバク千イサシトテ賤云
ル詞ナリサモシイハサモシイ也モトニ通意ナルエハサモシイヲ
サモシイト云フナリ人ヲサミスルト云フモ人ノ器量ヲセハク
千イサシトテイヤシムルナリ福ノ字クサモシイハ寂寞ノサビシ
イトハ別ナリサモシイトサビシイト差別ヲ知ルベシ
一 埒ノ字 玉篇盧杜切封道曰埒トアリ音レワ也吳音ニテ
ハラワ也ラツ轉シテラキ也封道トハ道路ノ傍ニ土手ヲツク
トセソレヲ埒ト云廣韻ニハ堤也トアリ堤モ土手ノ一也又字

彙ニ庫垣也トアリ庫ハ玉篇ニ音婢短也トアリ庫垣トハ
シカキカキ也此注吾國ノ埒ニ合ヒクナラキハ垣セイ短クヒキシ
封道ト堤也トノ注ハ吾國ノ埒ニ合ス○ラキノ一又下シルス
一 三浦ノ源平盛衰記卷三十三賴朝征夷將軍宣ノ篇義澄ハ
赤威ノ鎧ニ申ラバキズ右ノヒサヲツキ左ノヒサヲ立テツ、テ箱入
奉ル所ノ宣旨袋ヲウケ取奉ラント左右ノ手サケルトキ康
定カ子テ三浦ノハ兼テ侍レ共ソモ、ノ御使ハ誰人ニテオハ
シテスルトタツ子候シカニ浦ノハ名ノラスシテ三浦荒次郎
義澄ト名ノルニニ宣旨ウケトリ奉ル云々 貞丈按國司官名
ニ相摸武藏ノナト、云フトハアリ三浦ノ富樫ノナト卿名ノ
ハハナキナリ三浦義澄ハ三浦ヲ領スルエハ私三浦ノト名ナリ

ニナルハニサレハ私号ナルニ勅使ニ向テハ三浦トナラズテ
三浦荒次郎ト名ノリシナルハ富樫ト同前ナルハニカヤウノ
事ヨリ官名ニ乱レ今ハアラ又各トナリ何処何處ト云
フコニナリシナリ

一 札字 江談抄卷五曰又問云札字誠本朝作字歟如何被命
云杜字本朝山田福吉所作也 榑字又見日本紀云

一 置上下事 江談抄卷三曰又被談云知置上下可敷事
也面延裏ニ折返天同甘タルヲ上下知也 不折天只付ヲ下仁可
敷也云

一 可然人者著袴奴袴不著夏 江談抄卷二曰戸部卿曰
故古大将御童稚之時著袴之日夕從上東門院被奉御裝

束一襲

兼日依被
申請也

不被副進奴袴時人或稱合忘却給

之由或童中可被申請之由殿下無返答不審刻限之
至矣不著用給其後院聞食此旨仰云宜人者著袴之
時不著奴袴也近代人不知案内歟干時近習上達部
殿上人非參議等濟々焉仍不傳聞哉尤耻辱多平資業
章信不知此旨猶以不及古賢也

一 禁裏御屏風夏 江談抄卷二曰諸御屏風等有其夏
事又云諸屏風等有其敷所謂漢書古毳埭元錄慶天
圖賢聖山水等御屏風等之類是也隨時立之毒事見
裝束日記文類○貞文云右ノ外ニ大宋ノ御屏風地獄變
ノ御屏風等又年中行事ノ御屏風等古書ニ見タリ

一 警蹕事 江談抄卷一曰或人云警蹕曰天子用之 見文

私行之時何用此哉答云公卿皆隱公達隱也私事云々

○又云警蹕者文選云出警入蹕是天皇近也事狀迹

備司誠諸人之義也卿相公達私行之時誠諸人者卿相者

皆隱公達隱也云々此事 都督之說○貞丈云吾朝ノ警

蹕者近衛司天子出行ノ時御先ヲハラフニアフクト高聲

喚ハルト云也是ヲサキヲオフトモサキゴヘトモ云フ也天子ノ外ハ

セ又丁ナシトモ公卿公達ハ私ニテ内々ニテサキヲオハスル也私

事ナルユハ朝廷ニ隱レテ 行フカ^ナ後世武家先供カホウハ

ト云テサキヲハニフモカノ余風ナリ

一 吉備大臣真備ハ天平字ノ比ノ人ナリ

一 顯基 江談抄卷三曰又被命云入道中細言顯基常被

談云無咎^ニ被流罪而欲見配所之月云々○ウレクニイ

ハルモ江談ヨリ出ナリ

一 季子部王トハ重明親王ヲ称スル也季部ハ吏部也民部々ノ

唐名也

一 馬埒 正字通云埒音劣卑埒也世説曰晋王濟有馬埒謂

千外作短垣繞之也○山堂肆考云唐 馳埒園鷄埒皆唐時

長安故事也○蒙求武子金埒 王齊子武子 晉人ナリ 買地為馬埒

一 元服 漢書昭帝紀注如淳曰元服謂初冠加上服也師

古曰如氏以為衣服之服此說非也元首也冠者首之所

著故曰元服矣

事之介ハ行ハサレドモ

一 能装束ヲ鎧ノ上ニ著シ候事神田白竜子カ雜語筆記ニ卷
四 大坂冬陣十二月廿五日鳴野合戦ノ砌上杉景勝ノ武士カ
原常陸次ト云七十有余ノ老武者鎧ノ上ニ紺地ノ錦ニ直岳ヲ
著シタリシヲ大御所上覧有テ若キ者共見置ヘシアレハ鎧
直岳ト云フ物ナリト上意アリシ人ト是ヲ聞テ鎧直岳
ト思ヘリ候之難波戦記等ニモ皆鎧直岳ヲ著スト記セリ實
ハ然ラズ其朝甚寒天ナリシニ折節能ク其寒ノ手近ニ如何ニ
テカ右ニ依テ有ルニ任セテ老人ナレハ寒氣ヲ交カントテ合
戦前ニ甲ノ上ニ著シタリ 下畧

一 河原者ト古ヨビシハ穢多ノ也 塩蘘杓云河原ノ者エツタ

ト云フハ何ノ字ヲエツタト云付也 常ニハ穢多ト書クケカレオ

ホキ故ト云フヲ古キ物ニハ餅取ト書ク莫ニハエトリト云ハ

ニ餅トハ肉ニテ鷹等ノ餅也 其ヲヒサク者ナレバエトリト

云々トハ同音也 エトヲエタト云フハ畧セル詞也 ト云ヘリ生物

ヲ室ニテ賣ル者ヲハ唐ニハ屠者ト名ツクホフル者ト云也

天皇ニ旃陀羅ト云フモ同餅取ノ臍キ者也 屠殺ヲモエ

タトヨム也 一条冬良公ノ令圖書ニ衛門府ノ下ニ物部一 是ハ罪令決

河原者ニ 去ルル故也

一 葦手書 塩蘘杓云アシテカキク下繪ト書ルハ何ナル

繪ヲ或人ヲ云アシテトハ文字ニテ繪ヲカクオ云又或銀物ニ

云和泉式部無双ノ好色也ケルニ 亥ノ子ノ夜御歌アリケルニ

熊ト心ヲ合セラレケバ瘡用ト云々式部取當テ筆モ
ワヒユカミテ物ノカ、ルハ是ヤ難波ノ惡筆ナルラムトヨメ
リ惡筆トハ字ニテ繪ヲキスト注セル物アリ又葺年手トモ
書也或ハ本ノ節或ハ雲ノバツレナドヲエガカレテ、ニ字ノ似合々
ルヲ以テ書ヲ葺ナドノ枯卧タルニソヘテ云也

一 魁本對相四言雜字ト云物ニカリノ繪圖ノツバニ秤ノ字ヲ
出ス三空字類ニハ秤ヲ俗字ト注メ稱ヲ本ニ出ス壺囊抄見

一 和光同塵 老子曰 和其光同其塵

一 道服 壺囊抄云道服トハ雨降ス時乘馬スル上ニ打著テ
帶モセ又物也灰ホコリノ立テ衣裳ヲ垢スヲ防ク心ニ殊更内
ニテ著スヘキ物ニアラサル也○貞丈云道服ト云裝束ハ公家ニ

用ラレ、者ニテ僧衣ニ似タル物也乘馬トノ時著ルハ胸服ナ
リタケ短クテ胸ハカリ覆フ服ナレユ一胸服ト云也道服トハ別也

一 盒膠 壺囊抄ヤン中土亦制衣アリ辭ニ雜事簿ニ見ヘタリ
天正年中阿蘭陀人飲奴速麻石ト云者ヨリ傳ル所ナリ○

網ニ塗ルニハ松脂三百目荏油五合黃蠟九十目○木ニ塗
ニハ松脂三百目荏油三合白蠟百五十目録ニ塗ニハ松脂三百

目荏油二合白蠟五合○胡麻油ヲ用ユルハ誤リナリ別ニ
口傳アリ 右廣大和本草別錄ニ見タリ

一 透骨草 廣大和本草 和名ヤブア井 濟世全書曰洗癰癩方中
用透骨草注透骨草云雄列雲南縣葉似食莢多面背共青
秋後結花碧青穗形如雌手膝根蟠屈蔓延數百莖皆相

連 吾国大掌會新掌會日十ノ神事ニ用ニ神学家秘
スル所ナリ蓋ヤテ井ハ上品漆色ニアラヌ神代質朴ノ更ヲ
和シムルナリ救荒本草及本草綱目有名未用ニモ出タリ
共皆一物ナリ○負丈云大掌會新掌會等ノ神更ノ時
白布ニ山ア井ニテ草木等ノ形ヲ磨^リ出シテ服ス是ヲ小忌^{ヲモ}
衣ト云フナリ糊ヲ布ニ包テ木形ノ文ノ上ヲ打テ其上ニ白布
ヲキセテ綿ヲ以テ布ノ上ヨリ押セバ木形ノ文ノ所ハ高ク外ハ
低クナル如此ニテ置テ山ア井ヲ磨リ丸メテ布ニ包テ文ノ上ヲ撰^撫
ハ文青ク出ルト云フナリ猶磨ヤウノ傳アルヘシ尋又ヘシ文
ハモエキ色ナリ

一

伽羅 廣大和本草曰沉水香梵名迦羅ト称スルモノナリ勢
列ノ異人來テ余ニ問凡今ノ世ニ伽羅ヲ好ムモノ六國ト云ハ皆
國ノ名トス是ナレヤ否ヤ余答云今迦羅ト称スルハ國ニカハラ
ス益迦羅ト云フハ沉水香ノ梵語ナリ佐留羅ト云フハ地ノ
名ナリ字或ハ摩^サ菴^ソ拉^ラニ作ル又須^ス門^モ多^タ羅^ラト云フハ蘇^ソ門^モ陀^タ
拉^ラ誤也一作^サ釐^シ埋^メ椽^チ羅^ラ字或作^サ佐^サ留^リ達^タ刺^チ共ニ同シ羅國
ト云フハ羅刺^{ラセツ}國ノ略也真那盤^{ニナ}水盤^{スイ}ナリ真那迦^{ニナ}大秦國ノ唐
蜀^{シキ}山ノ陽ニアリ熟トモ國ニハアラズ六國ト云フ一モ又久シク誤ル所
ニシテアラケムルニ及カケシ回回記ニ云沉香ハ樹類椿^{チン}類^レ也班^{ハン}班^{ハン}
ナスモノ尤奇品ナリトス又隱密雜志ノヨビ楞嚴經ニ埋火香ヲ
聞ユトアリ是今ノ迦羅キメ用ル法ノ如シ迦羅ノコトハ物理小誠
及ヒ適生八牋行厨集五雜俎洪蘭香譜事物紀原梵香七葉

三才圖會花鏡延壽書等ニ多見ヘテ考ヘ見ヘシ今コニ識
トコ只其大畧ノミ

一 矢ノ羽ヲコシラフル下ニ榘ノ木ニテモ何ニテモ堅キ木ノ平ナ
ル物ヲ置テ其上ニ羽ノ表ヲ上ニナシテ置テ榘ニテ羽ノ表ノ方ヨリ
羽クキツ行ヒヒクヘシ如此スレバ羽ノ裏ノ方羽クキノ中ノ通り
ミゾノ通りニ羽表ノ方ノ羽クキノレメ出末也如此シテサテ小カ
クハテ和ノ本ノ方ヨリ割ルヘシ右ノ如ク羽ツワリタテハ羽クキノ中
ノシニツ去ヘシ其ニシツ去リヤウ廣サ一寸ハカリ長サ羽クケホト
ノ木ヲ二本平ニ四角ニケワリ一方ヲ緒ニテモ藤ニテモ巻テ其
西木ノ合タテ同ヘ羽ヲハサミ羽クキノ所ハカリ木ノ面ニ出シ置テ
今一方ノ木ノ端ヲモ堅ク括リテ小カテ羽年ノ中ノニシツ去ル

ヘシ心ヲ去タレ上ヲ板ニハリハケタル木賊ニテスリテヤキカ子ヲアウ
レハ羽クキ直ニナリテタハニナクナルナリヤキカ子火ツヨケレハ羽焦
テ用ニタス右ノ如クテ篋ニハキ付ヘシハキテ後和ヲ刈ルハ又ノ
長サ五六寸斗ノハサニニテ一トハサニハサニ切ル也

一 サカ木ノ事 廣大和本草云上澆花和名サカキ天帝道式
云樹高大餘葉似古度子夏開花如梅花除夜移植於園以
避一年瘟疫之氣スハ今ノサカキナリ吉田及荒木田等神
道家ニヤクシニツカト云コトアリ恐ハユレニヨルナリ

一 大臣ヲオトハトヨムフ 貞丈梅殿ノ字ヲ擬訓ナリ夜歸殿ヲ
ヨルノオトト云ナリ大臣タル人ヲ殿ト云ナリ
一手紙ト云事 貞丈梅年簡ハニユカントヨムニユカニサテカニ

トヨコテ又將ニテテカミト云モ終ニ年紙ト書タ九ナリ

一 明衛往來一名雲列往來ト云フ○藤原敦光ハ明衛ノ二男也

一 境飯 境ハ境ノ誤古書 多誤作境 左經記卷一 境仁元年 廿一日乙卯候内

新中納言被出殿上境飯 左大將 被調 上達部殿上人多被參會

各乘醉巡檢五節所○又卷三 寛仁四年 九月 十九日丙寅天晴无

京大夫被儲殿上境飯舞姫等參上如例○東鑑ニ毎月ノ

境飯見タリフルヒノナナナリ

一 双紙銘書様 塙囊抄云双紙ノ銘ヲ申ニ書アリ 端ニ書アリ

リ如何勅撰筆ノ歌尊子ハ皆端ニ書大和物語伊勢物語

等徳ヲ物語 ハ必中ニ書也仍光源氏皆中ニ書也ト 是冷泉家 其外ハ無抄

法欣又於聖教天台宗ニ山門ハ多命中心ニ書キ寺門ハ必銘ニ

書トト云

一 唐ノ香合ノ事 右同書云唐香合等ニ今ツコウナツキナ

云字ハ如何別紅別金ト書リ別ハ割也ト歌セリ 割ヨハ又割ニ作

リ麻子ニ作レリケツリミカク心也加之堆紅堆朱堆烏堆漆屏

皮玳瑁圭璋雲朱鷄楊雞漆金糸華紅花綠葉九連糸

十二ト云フアリ是皆其呂ノ名也楊茂柳成等ハ作者ヲ名也

靈芝一ツ花三ツ花ナレト云フモ年ノ名也緹而靈芝ニ非ナル物ヲ

堀ル共尔云也一花三花モ以テ同シ各其ニ於テ各舉スルカ

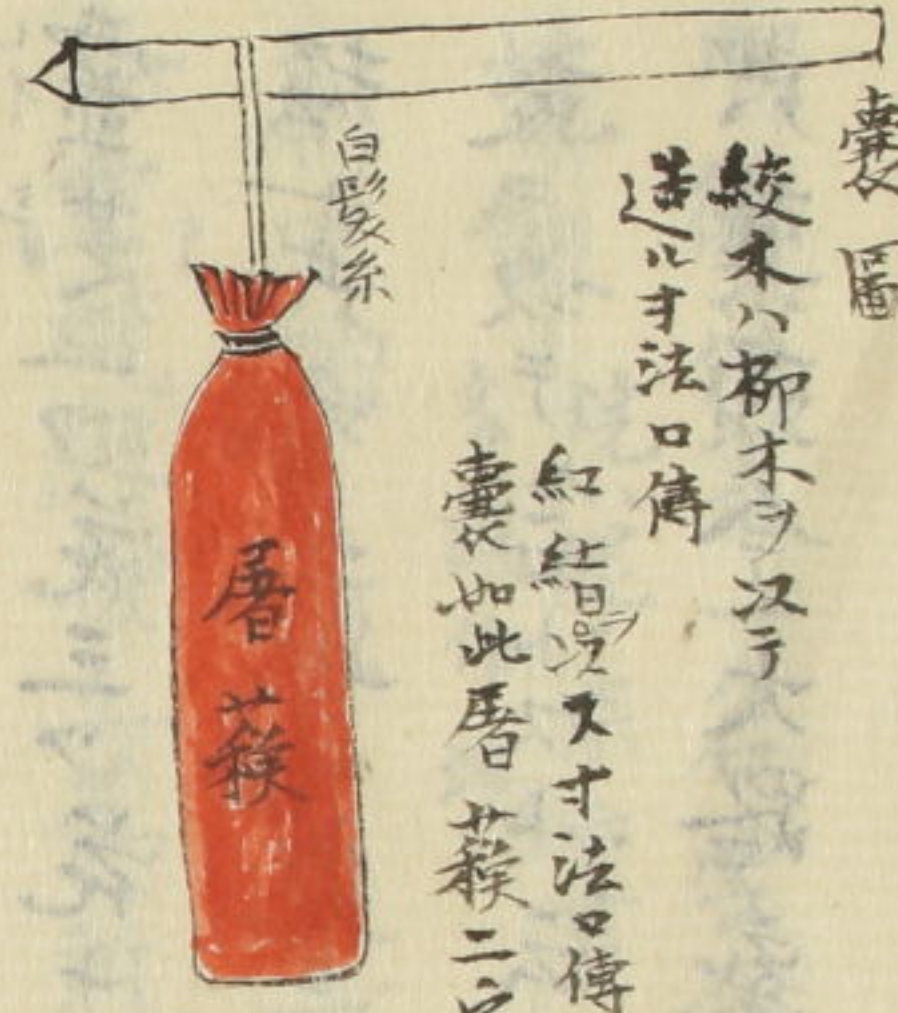
故ニ以テ名トスト云ハリ

一 典葉頭今大路家 禁中ノ式ニ非ス

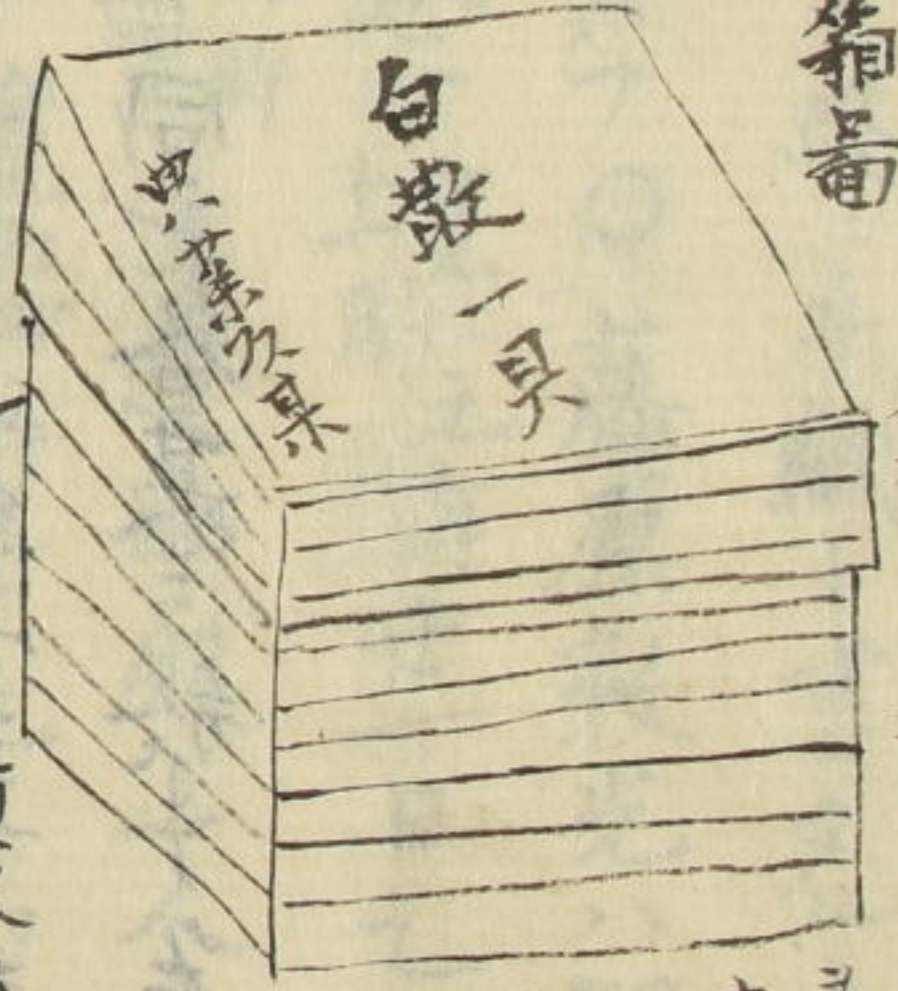
唇葎

綾木ハ柳木ヲ以テ
造ルテ法口傳

紅結ハ又才法口傳アリ
囊如此唇葎二字ヲ記ス



唇葎箱蓋



右箱ノ口箱ヲ以テ箱蓋ニテ
シテ細クタテテツル
ナリ

ウキキセフク
才法口傳

貞丈云此ハケモノノ管ヲ
スハテ昔ノ詞ニハ折ト云

貞丈云フケ物ニホ
細ク折テツクイニ
付クル昔ノ詞ニハ折
カツト云セ此管ノ
限ラヌ

今世典茶頭ヨリ
除名ノ唇葎

紅ハ袋ニ入
柳木ニ掛ル

口傳白散

土器ニ入樽紙ニテ

包之口傳

痰瘴散上三同

膏茶上三同

以上四品ハ一對

陽ハ柳ヲ以テ造之

傳右之品皆箱ニ入ル

是ヲ唇葎箱ト云フ

箱ノ上ヲ紙條ヲ以テ括也箱

ノ上ニ白散一具ト記シ下ノ傍ニ典茶頭某ト書テ献上スルナリ

一 女官ノ中ニヒスト云者アリ 桶洗ト書ク又畧シテヒスト云

一 云是ハ眞器ヲ洗ヒ清ムル役ヲツトムル女也大使ヲヒリ入ル物ヲ

ハコト云フナリ此ハコヲ洗フ也ヒストハコヲ持テ行ク平仲ト

云人カウハヒトリニ事小世繼ニ見ヘタリ古代ハ厨ノ下ニ瓶又ハ樽

ナトヲ堀入テオクハナク箱ニ大使ヲヒリ入テ度ニヒスト

ニアラハセタルナリ

一 書状ヲ紙ニ包ミ糊ニテ封スルヲ封スルヲ糊封ノ状ト云フ古代無之

也或書札ノ書ニ是ハ慶長文祿之比ヨリ始シリ此時乱世也

故ニ糊封ヲ用石田治部少輔専用之包様ハ医師ノ茶包ヲ學

フ也ト云ヘリサモアルベシ此説アヤマリト清少納言枕草子ニノリニテ文

一 圖書集成ト云書一乃卷アリ清朝ノ康熙帝ノ自撰也此書

南京ノ高船ニ載テ元文元祿年長崎ニ渡シテ奉行細井因

楷守江戸へ伺テ仰ニ依テカノ書百六十卷二十函上タリシカ其
本ハイニ父全備セケルヲ印板シテ圖百ニ解説ナキ所多アリ
シカバ序不審アリテ舛主ニ尋サセラシカハイテ夕成就セケルヲ
板ニシ名ヨシ申スニ依テ成就シ先時渡スニトテカノ本ヨハ送ニ
夕ニテ後室曆十四年成就全備ノ本ヲ持渡ル一カ卷ヨリ是ヲ
官庫ニ納ラル〇或説ニ清朝ノ姓ハ清ト云源義経ノ裔也清
和ノ清ノ字ヲ取テ国号トスル申苗書集成ノ康煥帝ノ自序ニ
見ヘタリト云是ハ偽也予固アリテカノ序ノ寫ニシテ見ルニ
其事曾テ無之

一 我国中古以来ノ文章ニ以テ字令ノ字ノ用違アリ悉以具以
弥以甚以誠以猶以先以十ド、云フ以ノ字無用ノ以也漢文ハカ

ヤウノ所ニ以テノ字ヲハハカハ又事也又今ノ字ハ人ニ云ニハカ人ヲ
ハカハ人ニ物事ヲサセルトニ用ル字也シカハ今板見今参入今
見物令他行令帰宅ナト、書テ我カ板見ニ名変我カ卷^参入ニ
夕事我カ見物シ名変我カ他行シ名了我帰宅ニ名了ヲ
云フハ非也人ニ其事ヲサセルニハ今ノ字ヲ用ル也サレハセムルト
ム也セシムルトハ人ニサセルト云フ也漢文ハ我カ事ニ今ノ字ヲ
用ル事ハナキ也又致ト云フ字ヲ用ルモ用違ヒアリイタストハ此
所ヨリ彼處へ至ラセム事ナリ夕トハ使ヲ致スト云ハ使ヲ至ラセ
ム也忠節ヲ致スナト、云フハ心ヲ忠節ノ道ニ至ラセムナリ皆
推テ者ヘシ御状致被見假致迷惑候ナト、云フ致ノ字義ニ叶ハ
ズ是等ノ文字ハカハ漢文トハ大ニ違テ誤ナレトモ常ノ文通ニ誤

ノマニ用ヒテ世俗通用スルヲヨシトス（世俗ニ違先ハ惡シ其本義ヲハ知リオクヘキ也）也スヘテ万莫此心得有ヘシ

一 中古以來我國ノ俗文ニ人ノ字ヲ用キ処ニ仁ノ字ヲ用ユ狂人ト云

フヲ狂仁ト書キ人射ト云フニ仁射ト書クアリ仁者人也ト云フ

事孟子ヤラニ見タレソレハ別ノ也人モ仁モ同字ト云フニアラス

一 庭訓往來ナトニ不違毛筆ト云或ニ不違毫筆ト云フアリ毛モ

毫モ筆ノ事ヲ云フ也筆ニテ書キハクスニ暇アラスト云フ也

毛筆毫筆トモ漢文ニハナキ詞ナリ毛筆史記評林ノ凡例ニアリ漢文ニハ枚筆ト云フナリ

一 サカイキハサカイキハ逆氣也サカイキノ特語サカヤキ也古代ノ人ハ

サカイキナシタマク逆上ノ氣ヲヨクタカキ人ハサカイキナシ

アリ古代ノ人常ニ早ボシラカフルユ（逆上ヲヨキ人ハソリ也）又合戦

ノ時曰ラカワリ逆上ヲヨキ人ハタマクソルヲアリ天下万民月代

ソルハ逆世ノナリ秀吉ノ北ヨリノ事歟古画ノ結城合戦ノ繪

結城ノ七郎カ曾ヲ又キ鎧ヌキテ切腹スル射ヲ繪キハニサカ

イキノ射ヲ画タリヒタヒノ前ニ

毛ヲノコシテソリカ射ナリ今世ノ中ソリノ如シ



如此ノ射ナリ古代ノサカイキナリ

一 折身ニテ痛ムハ牛糞ヲ日ニ乾シテ布ニ包ミ熱湯ニ浸シテ其

包タル牛糞ニテ痛所ヲ蒸スヘト甚奇妙也乾カレ牛糞ノ香

甚香ハニキ者也糞臭クナシト或人ノ談ナリ天竺ニテハ牛糞

ヲ焚物ニシテ佛ニ供スルヨシ法花珠林ニ見ヘタリ

一本府隨身 職原環翠板云番長本府隨身任之他人ハイタク

不任近衛ハ以下十五字衍字隨身任之他人ハイタク不任近衛ハ隨身上

着ヲ番長ト云奉氏下宅野氏等今ニ隨身也裝束褐衣冠又
符衣花著^{ツケ}タリ十時ニヨリテ其出立サセクナリ○私考云番
長已上府生將曹ヲ本府隨身ト云近衛舍人は隨身ハ歩ナリ私考ハ国
分氏ノ私考也

一職原抄 国分氏ノ私考云凡此書ハ叙位除目行ハレニ為ナ
レハ諸官共ニ主典以上ヲ載タルナリ主典以下ハ不預除目故不載
此書諸司ノ下司具ニ令式ニ有之此書ノ為專用事ハ叙位除
目ノ心ハハテ各ヨリ故ニ所ニ叙位除目ノ更ヲ載ス

一姓朝臣各朝臣ノ事 職原環翠抄 清三位宜買ハ
環翠軒ト号 曰三位以上
ノ参議ハ名名時参^ミリ議^ハハ藤原朝臣トカリ時^呼也氏ノ下^カア

付テ呼フ大納言中納言モ同事也又畧^{石名ニ}テアラス書付ル時ニ位三位
ノ参議ハ大納言中納言ト同様ニ某ノ宰相ト書類也位署ノ時ニハ
大臣以下未ノ諸官ニテ不殘官位ヲ悉ク書載テ其末ニ氏ノ下
ニ名乗ヲ書ク姓ノ朝臣某ノ朝臣ト云事ハナキナリ也○薩戒
記云應永世三年正月十二日伊勢太神官造宮使宣下之中正
四位下行神祇權大副大中臣宣右朝臣ト書之是四位ノ人ヲ朝
臣ト名字下ニ作ル也不位署書假ニ書也ト国分氏ハ私考見エ
タリ○壹井氏云姓朝臣各朝臣ト云フハ公事ノ時大臣タ
ル人參議ヲ石ス時ノ名名ノ法ニ此差別アリ參議ノ名名ニ限リタ
ルナリ也然ルハ位署書ノ法也ト思フハ誤リナリ

一庭訓往來尺素往來 十トノ往來ノ字出所ハ史記 卷之八十七
新列傳

云趙高聞其文書相往來スツ

一度量 續日本紀卷一文武天皇大室二年三月乙亥始領度量
于天下諸國。量字印本作置誤也

乳母 續日本記卷一文武天皇三年春正月壬午京職言林
坊新羅女年久賣一產二男二女賜絕五足綿五足布十端箱
五百束乳母一人。此後三子ヲ產ム者ニ布以下并ニ乳母ヲ
賜フ所ニ見ヘク

一時服 續日本紀卷十二聖武天皇天平八年冬十月戊申
施唐僧道璿波羅門僧菩提等時服。○祿令云凡親王
年十三已上皆給時服料春絕二足糸二釣布四端銀十口
秋絕二足綿二疋布六端銀四疋。三代室錄卷四十二陽成天皇元慶
七年二月廿五日壬戌賜渤海客徒等

時服

一留守 續日本紀卷五元明天皇和銅三年二月辛酉始遷都
于平城以左大臣正二位石上朝臣磨為留守

一靈壽杖 續日本紀卷一文武靈壽杖漢書顏師古注曰靈壽木似
竹首節長不過八九尺圍三四寸自然首
合狀制不煩刺理作
杖令人延年益壽天皇四年春正月癸亥有詔賜左大臣多治比

真人嶋靈壽杖及輿儻高年也。○卷九元正天皇神龜二年十
一月己丑是日大納言正三位多治比真人池守賜靈壽杖并絕
綿。本草綱目○靈壽木一名杖老又据陳藏器曰生劍南山谷口長皮紫時珍
曰陸氏詩疏曰括節積也節中腫似杖老而今靈壽木是也人以作杖及馬韉
私農郡北
山右之

一宮中持扇策杖 續日本紀卷廿四廢帝天平宝字六年八月
丙寅御史大夫文室真人淳三以年老力衰優詔特聽宮中持

扇策杖。此文ヲ見レ上古宮中ニ扇ヲ持テ制禁アリ云淨
三ニ別勅アリテ宮中扇ヲ持ツテラエルレ也後代ニハ扇ヲ
朝服ノ具トシテ槍扇蝙蝠ト宮中ニ持ツテニナレリ武家ニ

テ貴人ノ前ニ扇持ツテヲ悼ル上古ノ礼ニ叶ヘリ婦人ノ扇續錄ニアリウイハレ也

一 襖 續日本紀卷三十六光仁天皇日記同年三月癸巳以中納言從三位藤原朝臣繼繩為征東大使正五位上大伴宿祢益立從五位上紀朝臣古佐美為副使判官主典各四人 寶龜十二年七月癸未征東使

請申一千領仰尾張參河等五國令運軍所甲申征東使請

襖四千領仰東海東山諸國造送之。貞丈按此時逆虜ヲ討

ニカ為ニ征東使陸奥國ニ發行スルニ依テ甲一千領ヲ請テ而右

又襖四千領ヲ請テ軍中ニ於テ襖ハ何ノ用ソヤ後世ノ鑑立垂

如ク著スル為ナルベシ

追按續日本紀綿甲冑欵襖ハ三代實錄ニモアリ

一 君子固 續日本紀卷三文武天皇慶雲元年秋七月甲申朔正

四位下栗田朝臣真人自唐至初至唐時有人來問曰何処使

人答曰日本國使我使反問曰此是何列國答曰是大周楚列監

城縣也更問先是大唐今稱大周國号録何改稱答曰永

淳二年天皇太帝崩皇太后登位称号聖神皇帝國号大

周回答略了唐人謂我使曰亟問海東有大倭國謂之君子

國人民豐樂礼義敦行今者使人儀容大淨豈不信乎語畢而

去ト。○永淳ハ唐高宗ノ年号、皇太后ハ武則天皇后也

一 襖 貞丈按襖ハ衣服令延喜式等ヲ考ルニ衛府ノ官人著ス

ル剛臆ノ袍也裁縫其袷ヲクビカニニシテ袷衣ニ似タリサレハ袷衣ノ

本名ヲハ狩襖ト云フ也鷹狩ニ著ルハ襖ト云フ也襖ニハ袖括ナシ

狩禊ハ袖拾アリ鷹ヲウカフニハ袖口ヲ拾リシメテチヲウカフ
ニ便ヨカラニカ馬ナルヘシ素禊ハ其袷タリクヒニシテ裁縫禊トハ
異ナレ共禊ノ名ヲ得タリ彼ハ綾ニテ造ル是ハ布ヲ作ル故賈
素ノ義ヲ以テ素トハ云フナルヘシ 裾衣ハ狩衣ノ如クテウキヨモヒ
フサキタル也拾要板ニ見ユ

一 綿禊冒 是ハ右ノ宝龜十一年ノ文ノ禊トハ異ナリ續日本紀卷
廿四 崇徳天皇平定字六年正月十未造東海西海等道節度
使辨綿禊冒二万二百五十具造於太宰府口貞丈按是ハ同
書同卷同年二月乙卯ノ紀ニ綿甲冒トアルト同物也又續日
本後紀兼和二年二月丁巳ノ紀ニ綿甲トアルモ同ト申ニ綿ノ
入タル甲冒ナルヘシ綿者柔ニテ刀鉞矢鏃ヲ防クヘシ

一 迦世ノ人ノ著セル書台徳公嚴右公常憲公ト書スルアリ何
故ニ院ノ字ヲ捨テハ公ノ字ヲ用ルヤイフカシ院号ハ勅令テ何
院ト号シ給フヲ下トシテ何ノ院号ヲ削リ去ルヤ其罪少カ
ラス或ハ儒者ノ書ニ徳廟嚴廟憲廟トト、書タリアリ是又同
前也下トシテ何ノトニ此号ヲ被ラシムルヤ

一 草履類ノ事 物類稱呼 諸國ノ方言
ヲ記タル書也 曰江戶ニテコシホウ又
ノリ物ヤウリ ウラシモテ氏ニテ南ノカラ
ヲ以テオリタルナリ 畿内西國ニテコシカウト云モ
カウリノ 竹ノカワミテ
ワタリタルモノ ヲ九列ニテウラナシト
名也 ○江戶ニテカツサウリ 江戶ニテワラノシベトイフモノヲ
京大坂ニテワラスヘト云フ 因幡ニテワラ
云フ東國ニテカツサウリト云 ○江戶ニテコシズワラチヲ 関西ニテアトウチ
京ニテスヘサウリト云 江戶ニテワラノシベトイフモノヲ
京大坂ニテワラスヘト云フ 因幡ニテワラ
ミゴカウリト云フ ○江戶ニテコシズワラチヲ 関西ニテアトウチ
サウリト云フ 九州ニテ ムシヤワラチ又ムシヤガウリト云 小兒ノハ
クモノミ

今案^ミ禱^コ新^コ和名夕子ハメトイフモノ也地下ニテ用ルハ制異也トイヘ^レヒコニカウトヨフ昔比叡山^ノ安然僧正食^ハ窮^ニミテ書ヲ求ル^ナカラナシ依テ金剛^法畏也ヲキニ持^タテヒテ草履ヲ

制ニヨリコニカウサウリト世ニ云ヒ習ヒタルトナリ

以上物類稱
呼ニ見ヘタリ

○夏丈按コシガウハワフ草履也世間ニテ作りタルヲ井^ノコニゴウ

トモ井ノゲトモ云又緒太トモウラナシトモ云フ又按常^ノ草

履ハニ枚カサ子ナルヲ一枚ニスルユヘウラナシト云エ枚裏ハ本ニ

アラス

+

コシズワラチ今世ハ小兒ノミハク物ノヤウニ聞ユレトモ小兒ニカ

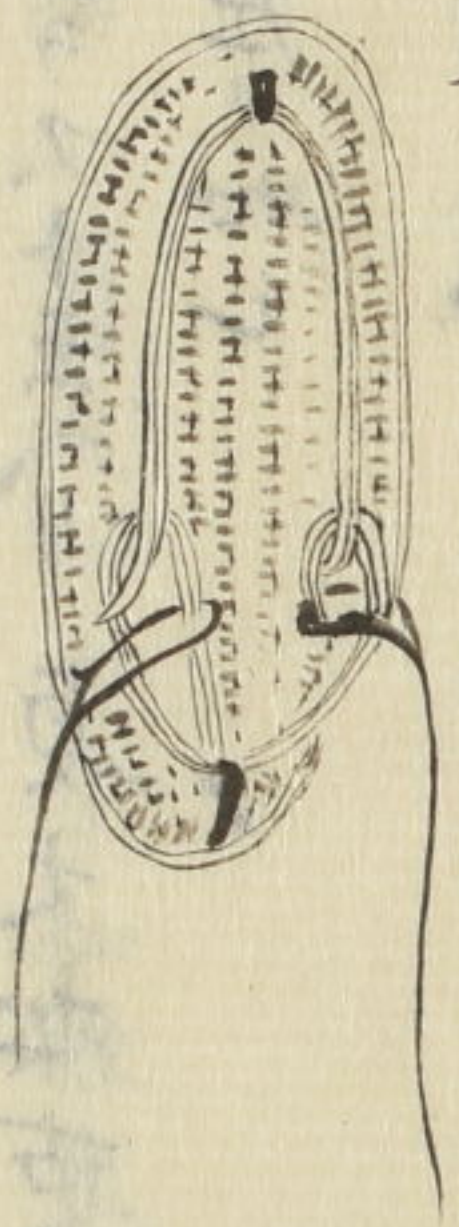
ギラズ本ハ大人ノハクモノナリ古ハ武者モハキ名エ武者口^ノ子

ヒ云フ源平盛衰記ニコシズハキテト云フ爰見ヘタリ又義經記

ニモ弁慶ハ大先達ニテ有ケレハ袖短ナル淨衣ニカチンノハキヲハキ

コシズハキテト云フ有コニスノ制今ハ知ラヌ人多ク小兒ノハキモノノミ其

制ノヨリ圖ノ如シ



障泥又藪^散泥トモ云フ和名枚ニ見タリ泥ヲ障ルトモ泥ヲ藪

フトモ云フニ據テ考レハ此物元ハ雨雪ノ日泥ヲ馬足ニ蹴立

テ衣履ヲ汚スシ障^シカ為ノ具也然ルヲ雨雪ノアラサレ^レ是

ヲ常ニ用テ踏トスル^トニナレリ晴天ノ日ハ魚用ノ具也サレハ武

家ニ軍陣又騎射ニ必障泥ヲサ^レサル也^特川渡ニハ障泥ニ水ニ

トムユヘ^レ心之ナリ大將行軍道路ノ間ハ行^ハ靴^ノ刷^ハ壯觀ノ為

二虎豹ナトノ障泥ヲ用ル莫アレトモ戰場ニ臨テ障泥ヲサス
一ナキナリ画師此事ヲ知ラズ戰場ノ騎士ノ像ニ障泥ヲ画
クハ誤リナリ又按障泥ヲ泥障ト書クハ誤リナリ

一冠 放中子ノ支前ニ記ス
中古冠ノ条ニテリ 厚額薄額半額透額ノ品アリ 透額ハ

今モ用ラル冠ノ額ニ半月ノ形ヲ彫リ透シテ其他ヲ羅ミテ
ハリフサキテ漆ニテ又リタル也若年十六歳ノ春迄用之也其
外ハ今詳ナラスト云ヘリ 貞丈按古画ヲ見ル冠ノ額ヲ高ク
画タルアリ左ノ如シ



如此也厚
額ナルハシ



上ノ薄ニ據テ思フニ
如此高クニタルハ半
額ナルハシ



如此ハタロノ低キハカスヒタヒナ
ルハ是今世用ラル冠ノ形ナリ
半額トハ昔ナスヒタ井ナルハシ



一本

如此額高キ古画ニ見タルハ 繪ナルニ幾寸ホト高キト云フ一ハ量カモ厚
薄ト云額ノ正画ヨリ見テ高ク見ユルヲ厚トシ低ク見ユルヲ薄トシ其中尤ク半ト云ハ
薄額也然而暑天不叶トハハカキハ 額ト冠ト同近キニハ暑天ニハ惡シ仍テ半額
ヲ用テタ井ハ冠ト及、同女遠キ也

量ノ説也スヘテ古書ニ見サル推量ノ説ハ無^用トモ始^姑コレヲ記
スナリ

一和歌ト云フ事 貞丈曰古今和歌集ナト云 和ノ字ハ無用

也和漢ト相對スル事ナレハ若シ前ニ詩ヲ書タル書ナラハ詩ハ
カテウタ也故其次ニ我國ノ歌ヲ書キ列子バ和歌ト云ヘシソレ
父ニモ日本人ノ詞ハ和歌トハ云ヘカラス国歌トコソ云ヘケレト云フ
聞テ或人ノ云和歌ノ和ノ字ハ和漢ノ和ニハアラス上京大和國
ニ都アリシ故都ノ哥ト云フナリ 諸國ノ甲舎ノ哥ヲヒナワリト
云フ其ヒナワリニ對シテ都ノ歌ヲ大和都ノ歌ト云意エテ和

歌ト云也 貞文又曰都ノ朝廷ノ歌ナラハ田舎歌ニ對シテ都
 歌ト云フニ及ハズ冬歌トバカリ云テニギル、一ハナキ也世ニ諸
 國ニ都ヲ建ラレシカトモ其國ノ都ノ名ヲ奇ノ字ノ上ニ對ラセシ
 事ハナキ一也和歌ノ和ハ和漢ノ和ナリ漢ニ相對スル事モナキ
 ニ獨リ和云ハ右ニキ一ナリ此事和歌ノニカキラヌ一ナリ異朝ニ相對スル一モ
 ナキ一ニ本朝 吾朝ナト、稱スルモ無用ノ詞ナリ



